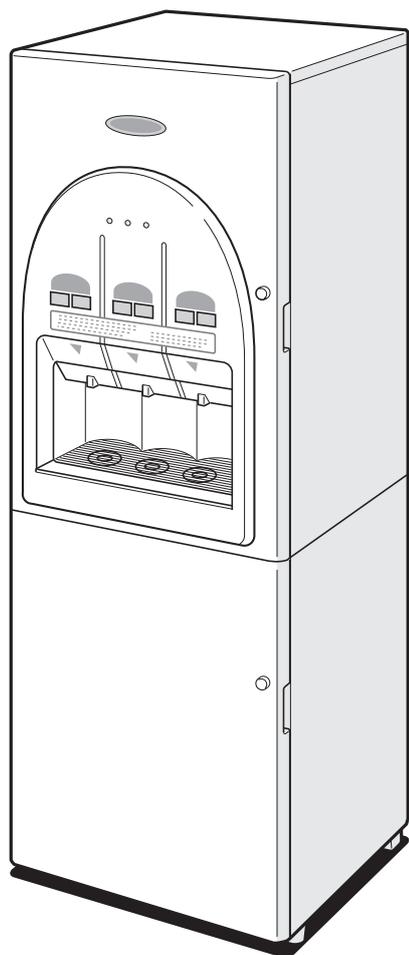


自動お茶いれ機 取扱・工事説明書

形 名

HPT-360M₁ (冷水付)
HPT-260M₁



もくじ

安全上のご注意	1~4
設置について	5~10
各部のなまえとはたらき	11~12
はじめてご使用になる前に	13
給水のしかた	13~14
排水のしかた	15~16
茶の葉の入れかたと交換条件	16
お願い	17
コントローラーの使いかた	18~32
コントローラーで設定できる機能	18~19
数値設定する機能の設定可能値	20
沸騰させる	21
茶の葉を交換する	22
冷水機の運転・停止	22
適温になっていないが注出する	22
原料の量を設定する	23
飲料の量を設定する	23
茶の葉の交換条件を設定する	24
長時間放置後の注出量の追加を設定する	24
累計の注出回数を見る	25
休止・故障履歴を見る	25
現在時刻を合わせる	26
湯温・適温を設定する	26
週間予約を設定する	27
休日予約を設定する	28
定期的にリンスをする	29
自動的に湯タンクの水を入れ替える	30
水フィルターの交換時期を設定する	31
殺菌ランプの交換時期を設定する	32
冷却用タンクの水の交換時期を設定する	32
お手入れ	33~35
別売部品	36
修理サービスを依頼する前に	37~38
仕様	38
保証とアフターサービス	39

- このたびは自動お茶いれ機をお買いあげいただきまして、まことにありがとうございました。
- この商品を安全に正しく使っていただくために、お使いになる前にこの取扱・工事説明書をよくお読みになり十分に理解してください。
- お読みになったあとはいつも手元においてご使用ください。
- この取扱・工事説明書はHPT-360M₁をもとに説明してあります。なお、HPT-260M₁は注出できる飲料の数が変わるだけで使いかたは同じです。
- 保証書を販売店から必ずお受けとりのうえ保存してください。

安全上のご注意

ここに示した注意事項は、据え付け工事をするかた、お使いになるかた、他の人への危害と財産の損害を未然に防ぎ、安全に正しくお使いいただくために、重要な内容を記載しています。

据え付け工事の完了後は、試運転を行い異常がないことを確認してください。

次の内容（表示・図記号）をよく理解してから本文をお読みになり、記載事項をお守りください。

【表示の説明】

表示	表示の意味
 警告	“ 取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷（*1）を負うことが想定されること ” を示します。
 注意	“ 取扱いを誤った場合、使用者が傷害（*2）を負うことが想定されるか、または物的損害（*3）の発生が想定されること ” を示します。

*1：重傷とは失明やけが、やけど（高温・低温）、感電、骨折、中毒などで、後遺症が残るものおよび治療に入院・長期の通院を要するものをさします。

*2：傷害とは、治療に入院や長期の通院を要さないけが・やけど・感電などをさします。

*3：物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペットなどにかかわる拡大損害をさします。

【図記号の説明】

図記号	図記号の意味
 禁止	⊘は禁止（してはいけないこと）を示します。 具体的な禁止内容は、図記号の中や近くに絵や文章で指示します。
 指示	●は指示する行為の強制（必ずすること）を示します。 具体的な強制内容は、図記号の中や近くに絵や文章で指示します。
 注意	△は注意を示します。 具体的な注意内容は、図記号の中や近くに絵や文章で指示します。

【本体ラベルの確認】

本体に警告・注意ラベルを貼り付けてありますので、ご確認ください。もし、ラベルが紛失していたり汚損により見にくいときは、お買い上げの販売店にご連絡ください。

免責事項

- 地震・雷および当社の責任以外の火災、第三者による行為、その他の事故、お客様の故意または過失、誤使用、改造、その他異常な条件下での使用により生じた損害に関して、当社は一切責任を負いません。
- この取扱・工事説明書の記載内容を守らないことにより生じた損害に関して、当社は一切責任を負いません。
- 本製品の使用または使用不能から生じる付随的な損害（事業利益の損失・事業の中断による損失など）に関して、当社は一切の責任を負いません。

設置上の注意事項

⚠ 警告

据付・配管・電気工事は関連法規や地方条例と、この取扱・工事説明書に従う
工事に不備があると、火災・感電・水漏れの原因になります。



指 示

電源は交流100V、定格15A以上のコンセントを単独で使用する

他の器具と併用すると分岐コンセント部が異常発熱して発火することがあります。



コンセントを単独で使用する

アース（接地）線の取り付け・確認をする

電気設備技術基準及び内線規定に従った、D種接地工事（接地抵抗100オーム以下）をおこない、アース線を確実に接続して、設置後は接地抵抗が100オーム以下であることを確認してください。アース線はガス管・水道管・避雷針・電話線などへの接続はしないでください。故障・漏電のときに感電する原因になります。



アースの接続

お茶いれ機本体近くの操作しやすいところに専用止水栓を設ける

水漏れの際、専用止水栓がないと大きな被害の原因になります。



専用止水栓の取付

給水配管はステンレス管や合成樹脂内面処理管など、関連法規や地方条例に適合した材質を使用する

ゴムやビニールのホースを使用すると、水圧により破裂し、水漏れの原因になります。



指 示

湿気の多いところや、水のかかるところへは据え付けない

漏電の原因になります。



湿気・水の禁止

地震などによる転倒防止の処理をする

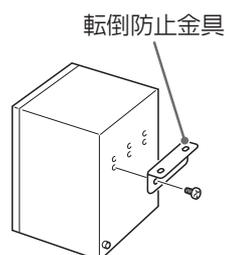
振動により転倒し、けがの原因になります。



転倒防止

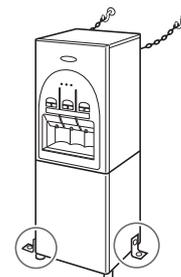
自動お茶いれ機の転倒防止

事故防止と地震などの非常時の安全確保のために、別売の転倒防止金具を使用して、壁や柱に固定してください。部品はお買い上げの販売店にご相談ください。



別売置台の転倒防止

別売置台を使用する場合は、グラグラしないように置台の高さ調整脚（前2本）で高さを調整し、別売置台の付属する床固定金具で確実に固定します。



安全上のご注意 (つづき)

⚠ 注意

配管水路にストレーナーを設ける

お茶いれ機本体に異物が進入し、水漏れや故障の原因になります。



ストレーナーの設置

ガス類や引火物がある場所の近くには設置しない

引火し発火する原因になります。



引火物禁止

水道法に規定された水質基準に適合する水を使用する

お湯 (30℃以上) や適合しない水を給水すると、衛生上の問題や故障の原因になります。



指 示

給水水圧は0.1～0.75MPaの間で使用する

水圧が高いときに減圧弁を使用しないと、水漏れや故障の原因になります。



減圧弁を使用

配管接続部は確実に接続する (直接排水式の場合)

水漏れのと看、拡大被害の原因になります。



接続確認

排水ホースは直接排水口に差し込む

水漏れのと看拡大被害の原因になります。



直接排水

工事作業中は手袋を着用する

金属端面などによるけがを防ぎます。



手袋着用

設置上のお願ひ

解梱後、運搬するときは商品下部の金属部を持つ

前面板はプラスチック製です。前面部を持つと変形や割れる原因になります。

商品の上に乗らない

商品が変形する原因になります。

取扱い上の注意事項

⚠ 警告

異常がある場合は、事故防止のため電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜き、お買いあげの販売店に点検・修理を依頼する

異常のまま放置すると感電・火災・水漏れの原因になります。



電源プラグを抜く

電源は交流100V、定格15A以上のコンセントを単独で使用する

他の器具と併用すると分岐コンセント部が異常発熱して発火することがあります。



コンセントを単独で使用する

警告**分解・改造・修理はしない**

発火したり、異常動作してけがの原因になります。



分解禁止

電源コードや電源プラグが傷んだり、コンセントの差し込みがゆるいときは使用しない

感電・ショート・発火の原因になります。



傷んだ電源コード、電源プラグ禁止

電源プラグの刃および刃の取り付け面にほこりが付着している場合は、電源プラグを抜き乾いた布などでよくふく

ほこりが付着したり接続が不完全な場合は、感電や火災の原因になります。



ほこりをとる

漏電遮断器（電源スイッチ）の動作を確認する

故障のまま使用すると漏電のとき感電する原因になります。
漏電遮断器（電源スイッチ）のテストボタンを月に一度押して、動作を確認してください。



動作の確認

部品の取り付け、取りはずしおよびお手入れするときは、電源スイッチを切る

感電やけがの原因になります。



指 示

お手入れするときなど、本体各部に直接水をかけない

ショートや感電の原因になります。



水かけ禁止

茶の葉の交換動作中は交換機構部に手を触れない

けがをする原因になります。



接触禁止

注意**電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに****必ず先端の電源プラグを持って抜く**

感電やショートして発火する原因になります。



電源プラグを抜く

月に一度は電源プラグ部分を点検する

電源プラグとコンセントの接触が悪くなり、異常発熱して発火する原因になります。



電源プラグの点検

本体上に重量物を置かない

扉の開閉で落下し、けがをする原因になります。



上乗せ禁止

本体上に水を入れた容器を置かない

水がこぼれ電気絶縁が劣化し、漏電や感電の原因になります。



上乗せ禁止

設置について

据付場所と据付工事

警告

湿気の多いところや、水のかかる
ところへは据え付けない

漏電の原因になります。



湿気・水の禁止

地震などによる転倒防止の処置を
する

振動により転倒し、けがの原因になります。転倒防止



アース（接地）線の取り付けを確認する

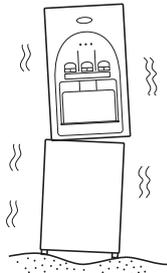
故障・漏電のときに感電する原因になります。
D種接地工事が必要です。またアース線は
ガス管・水道管・避雷針・電話線などへの
接続はしないでください。



アースの接続

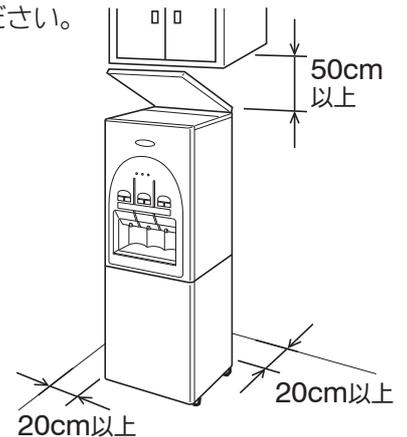
床は丈夫で平坦な場所に据えつけてください

床が傾いていたり不安定な場所では、
転倒したり振動や騒音の原因になり
ます。



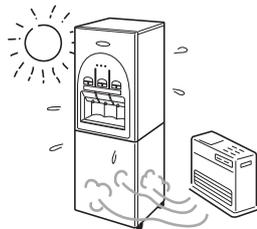
風通しが良く保守や修理サービスの容易なところ
に据えつけてください

必ず両側面と後面は20cm以上の隙間を開けてくだ
さい。スペースを開けないと換気効率が悪くなったり、扉
を開けたとき物に当たったりします。また、上側は修理
サービスのために、上面板が開けられるように50cm
以上空間を開けてください。



直射日光の当たる場所や、熱器具のそばには
据え付けないでください

冷水機の冷却効果が低下したり、
過熱し故障の原因になります。

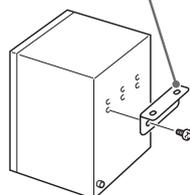


転倒防止処理を施してください

自動お茶いれ機の転倒防止

自動お茶いれ機本体を押したりす
ると、転倒することがあります。
事故防止と地震などの非常時の安
全確保のために、別売の転倒防止
金具を使用して、壁や柱に固定し
てください。部品はお買い上げの
販売店にご相談ください。

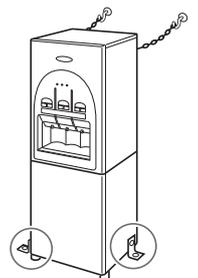
転倒防止金具



別売置台の転倒防止

別売置台を使用する場合は、グラ
グラしないように、置台の高さ調整脚
（前2本）で高さを調整し、別売置台
の付属する床固定金具で確実に固定
します。

高さ調節脚は、ネジ部を40mm以
上（置台外箱と床面の距離で60mm
以上）出すと高さ調節脚が置台より
外れます。床固定金具の取り付け方
法については、別売置台に付属の床
固定説明書をお読みください。

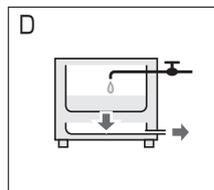


給水排水方式について

据付場所や給水・排水の方法により5つのタイプがあります。

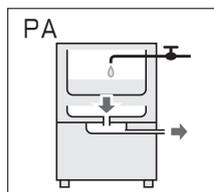
Dタイプ（水道直結・直接排水・卓上式）

既存のテーブルやカウンターの上にセットし、給水は水道に直結し、排水は排水口に直接排水して使用します。

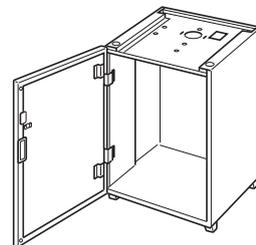


PAタイプ（水道直結・直接排水式）

別売置台CAT-10Mの上にセットし、給水は水道に直結し、排水は排水口に直接排水して使用します。置台内部に除菌浄水器（水フィルター）が組込まれているタイプと組込まれていないタイプがあります。

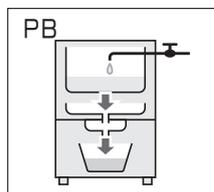


別売置台CAT-10M

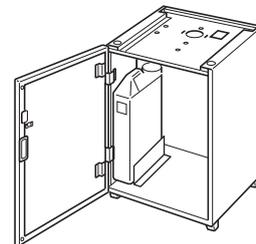


PBタイプ（水道直結・排水容器付）

別売置台CAT-11Fの上にセットし、給水は水道に直結し、排水は排水タンク（10L）に排水して使用します。置台内部に除菌浄水器（水フィルター）が組込まれているタイプと組込まれていないタイプがあります。

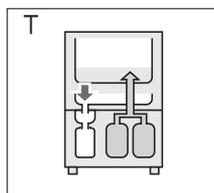


別売置台CAT-11F

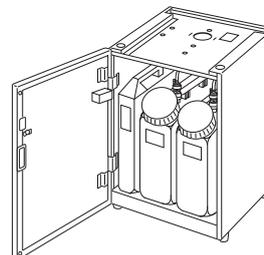


Tタイプ（下部給水・排水容器付）

給水は置台の水タンク（15L×2個）から内蔵ポンプで自動給水をおこない、排水は排水口へ直接排水、または置台の排水タンク（10L）に排水することができます。置台内部に除菌浄水器（水フィルター）が組込まれています。ポンプ電源は本体からとり、電源コンセントはいりません。

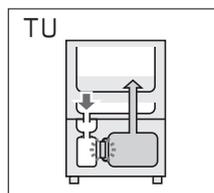


別売置台CT-33F

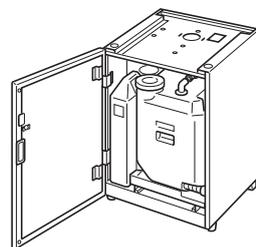


TUタイプ（下部給水・排水容器・殺菌ランプ付）

給水は置台の水タンク（30L）から内蔵ポンプによる給水をおこない、排水は排水口への直接排水、または置台の排水タンク（10L）に排水することができます。置台内部に除菌浄水器（水フィルター）と殺菌ランプが組込まれています。ポンプ電源は本体からとり、電源コンセントはいりません。



別売置台CT-32M



設置について (つづき)

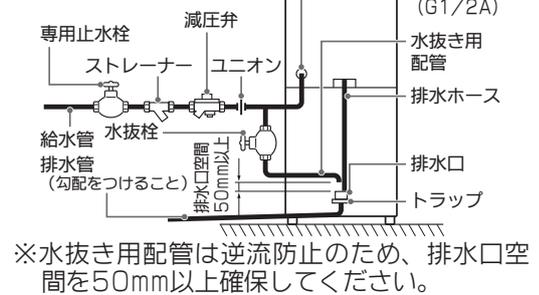
配管工事

上水道を使用する場合は、当該水道局の条例に基づき、認定工事業者が施工してください。

給水配管

配管工事は据付地区の気象条件にあわせ、標準配管例に準じて施工します。また、寒冷地区は凍結防止処理を標準配管例に準じて施工します。配管は耐食性のあるステンレス管や合成樹脂内面処理管などを水質により選定し、配管材料は切断後、必ずバリを取って使用してください。配管材料を自動お茶いれ機本体に接続する前に、必ず捨て水をして配管内のゴミ・シール材などを洗い流してから接続してください。油汚れ、バリやゴミなどが入ると動作不良や異味、異臭の原因になります。保守や点検のときや、水漏れの対策として給水側に専用止水栓と水抜栓と減圧弁を設け、減圧弁の出口側にはユニオンを設けてください。また、専用止水栓の後にストレーナーを設けることにより、給水側から自動お茶いれ機本体への異物進入を防ぎます。

標準配管例



排水配管

使用する排水管は、熱いお湯が流れるので、耐熱性のある管を使用してください。また、防臭・湯気の逆流防止のためにトラップを設けてください。排水ホースを直接、排水口に導き排水ホースの先端を中に50mm以上差し込みます。このときに排水ホースは排水皿の流水が流れやすいように、下り勾配にし先端がつぶれたり、配水管に密着してふさがれていないか確認してください。

別売の漏水検知装置の取り付けをおすすめします

万一の水漏れのときに給水を止め拡大被害を防ぎます。据付けのタイプにより適合する漏水検知装置はつぎの通りです。

Dタイプ・PAタイプをご使用される場合
漏水検知装置 (RKT-25)

PBタイプ・Tタイプ・TUタイプをご使用される場合
リード線付漏水センサー (RKT-03P)
ドレンパン (RKT-01P)

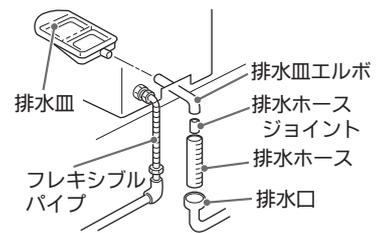
Dタイプ (卓上) で使用する場合 [水道直結・直接排水式]

給水配管の接続

自動お茶いれ機本体背面の給水口に、ユニオン継手やフレキシブルパイプなどを使用して、給水配管します。給水口の口径はG1/2Aです。

排水配管の接続

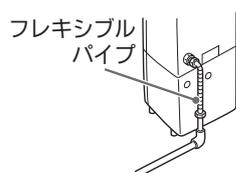
排水皿に付属の排水皿エルボ、別売の排水ホースジョイント、排水ホースの順に接続します。排水ホースは直接、排水口に導き、排水ホースの先端を排水口の中に、50mm以上差し込んでください。この時、排水ホースの先端がつぶれたり、配水管に密着してふさがれていないか確認してください。排水ホースがふさがれていると排水されません。



PAタイプ (別売置台CAT-10M) で使用する場合 [水道直結・直接排水式]

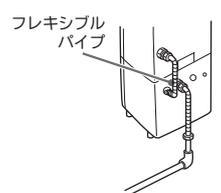
給水配管の接続 (浄水器無の場合)

自動お茶いれ機本体背面の給水口に、ユニオン継手やフレキシブルパイプなどを使用して、給水配管します。給水口の口径はG1/2Aです。



給水配管の接続 (浄水器付の場合)

別売置台の背面の穴からユニオン継手やフレキシブルパイプなどを使用して、置台内部の浄水器のIN側の継手に給水配管をします。継手の口径はG1/2Aです。別売置台に付属するフレキシブルパイプで浄水器のOUT側の継手と自動お茶いれ機本体背面の給水口との間を水漏れのないように確実に接続します。



排水配管の接続

「別売置台を使用する場合の排水皿処置」をおこない、置台の背面から出ている排水受けエルボに、置台に付属の排水ホースジョイント、排水ホースの順に接続します。排水ホースは直接排水口に導き、排水ホースの先端を排水口の中に50mm以上差し込んでください。この時、排水ホースの先端がつぶれたり、配水管に密着してふさがれていないか確認してください。

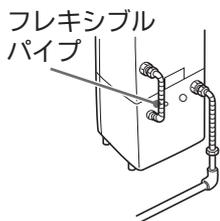


PBタイプ (別売置台CAT-11F) で使用する場合 [水道直結・容器排水式]

給水配管の接続

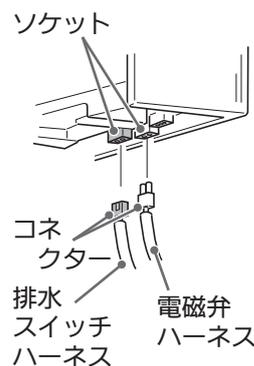
別売置台の背面の穴からユニオン継手やフレキシブルパイプなどを使用して、置台内部の電磁弁のIN側の継手に給水配管をします。継手の口径はG1/2Aです。

別売置台に付属するフレキシブルパイプで浄水器のOUT側の継手と自動お茶いれ機本体背面の給水口との間を水漏れのないように確実に接続します。



ハーネスの接続

自動お茶いれ機本体の電源スイッチ (漏電遮断器) が切れていることを確認します。別売置台の排水スイッチハーネスと電磁弁ハーネスを、自動お茶いれ機本体底部のソケット部へ差し込みます。自動お茶いれ機本体の排水皿を取り出しその隙間から覗いて作業すると、ソケット部が見え作業しやすくなります。



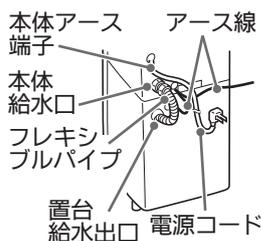
排水配管の接続

「別売置台を使用する場合の排水皿処置」をおこない、別売置台上部の排水受けエルボの排水口が、排水タンクの上に位置していることを確認し、置台上部に取り付けてあるフロートを排水タンクの中に入れてください。フロートを正しく入れないと水漏れになります。

Tタイプ (別売置台CT-33F) またはTUタイプ (別売置台CT-32M) で使用する場合 [下部給水・容器排水または直接排水式]

給水配管の接続

別売置台に付属するフレキシブルパイプで置台内部の浄水器との間を水漏れのないように確実に接続します。



ハーネスの接続

自動お茶いれ機本体の電源スイッチ (漏電遮断器) が切れていることを確認します。別売置台の各ハーネスのコネクターを、自動お茶いれ機本体底部のソケット部へ差し込みます。自動お茶いれ機本体の排水皿を取り出し、その隙間から覗いて作業するとソケット部が見え、作業しやすくなります。各ハーネスの接続を間違えると、故障になります。

排水方式の選択と排水配管の接続

排水は、直接排水と容器排水のどちらかを選択できます。工場出荷時は容器排水式にセットされていますが、排水設備のある場合は、極力、直接排水式でお使いください。万一水漏れの場合に拡大被害を防ぎ、排水を捨てる手間もかかりません。

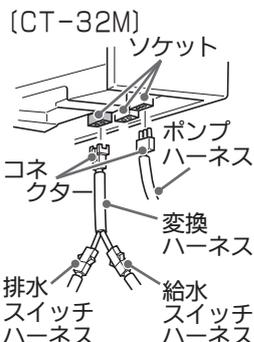
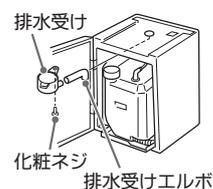
容器排水の場合

「別売置台を使用する場合の排水皿処置」をおこない、置台上部の排水受けエルボの排水口が、排水タンクの上に位置していることを確認し、置台上部に取り付けてあるフロートを排水タンクの中に入れてください。フロートを正しく入れないと水漏れになります。



直接排水の場合

「別売置台を使用する場合の排水皿処置」をおこない、置台上部の排水受けを化粧ネジ (1本) を取って取り外します。別売置台背面のシールを剥がし、排水受けに接続された排水受けエルボが、突き出るように排水受けを取り付けます。排水受けエルボに、別売の排水ホースジョイント、排水ホースの順序に接続します。排水ホースは直接、排水口に導き、排水ホースの先端を排水口の中に50mm以上差し込んでください。この時、排水ホースの先端がつぶれたり、配水管に密着してふさがれていないか確認してください。



別売置台 (PA/PB/T/TUタイプ) を使用する場合の排水皿処置方法

つぎのように排水皿を処置してください。

- ①自動お茶いれ機本体に付属の排水皿エルボを、切込線からカッターなどで切断します。
- ②排水皿エルボの切断した側を排水皿側に接続し、排水皿エルボの先端が下向きにします。
- ③排水皿を自動お茶いれ機本体にセットし、排水皿エルボの先端が置台上部の排水受けに、正しく向いていることを確認します。



設置について (つづき)

電気工事

電気設備に関する技術基準および内線規定に基づき、指定工事業者が施工してください。

⚠ 警告

電源は交流100V、定格15A以上のコンセントを単独で使用する
他の器具と併用すると分岐コンセント部が異常発熱して発火することがあります。



コンセントを単独で使用

アース（接地）線の取り付けを確認する

電気設備技術基準および内線規定に従った、D種接地工事（接地抵抗100オーム以下）をおこない、アース線を確実に接続してください。また、設置後は接地抵抗が100オーム以下であることを確認してください。故障・漏電したときに感電する原因になります。



アースの接続

アース（接地）線の接続

電源を接続する前に、アース（接地）はD種接地工事（接地抵抗100オーム以下）をおこない、確実に接続してください。
また、施設後は、接地抵抗が100オーム以下であることを必ず確認してください。

電源の接続

電源は単相交流100Vを使用し、15A以上の専用コンセントを使用してください。
他の器具と併用すると分岐コンセント部が発火し、火災の原因になります。
また、専用コンセントは自動お茶いれ機本体が異常のときに、電源プラグを抜くことができる場所に施工してください。

殺菌ランプの取り付け方法

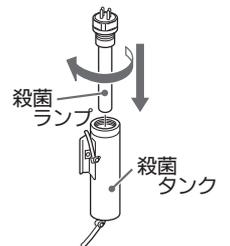
TUタイプ（別売置台CT-32M）で使用する場合

1. 自動お茶いれ機本体の電源スイッチを「切」にする

自動お茶いれ機本体の電源スイッチ（漏電遮断器）が切れていることを確認します。

2. 殺菌ランプを取り付ける

別売置台CT-32Mの水タンク上部に収納されている殺菌ランプを殺菌タンクに取り付けます。
このときの締め付け力は1.8~2N・mにしてください。強く締め付けると、殺菌ランプが破損する恐れがあります。



3. 殺菌ランプソケットを取り付ける

殺菌ランプソケットに方向性はありませんが、無理な力がかからないように取り付けてください。



4. 電源周波数の切り替え

工場出荷時には殺菌ランプの周波数は50Hzに設定してあります。
設置場所の電源周波数に合わせて周波数切替コネクタを差し替えてください。



チェックポイントと試運転

配管工事、電気工事が終了しましたら、次の順序でチェックしながら試運転してください。

配管工事後のチェックポイント

- 据え付けた床面の強度は十分ですか？
- 自動お茶入れ機本体はぐらつかず安定していますか？
- 配管は据え付けられた地区の基準に従っていますか？
- 専用止水栓はついていませんか？
- ストレーナー、減圧弁の取付方向と位置は適切ですか？
- 排水ホースは折れ、曲がり、ねじれはありませんか？

直接排水の場合

- 排水ホースの先端が排水口の中に50mm以上差し込まれていますか？
- 排水ホースの先端がつぶれたり、配水管に密着してふさがっていませんか？

試運転

1. 冷却用タンクに給水する

- ① 本体上部中央のネジ(1本)を外し、上面板を外してください。
- ② 給水用ホースは、自動お茶入れ機本体内部左側面にあります。ホースを本体にセットしたまま、ホース先端のキャップを外し、上面の左手前にある穴からじょうごを入れてホースの先端に差し込んでください。(じょうごは本体内部左側面の下側にあります)
- ③ 周囲に水をこぼさぬよう上から給水してください。冷却用タンク(4.9L)が満水レベルになりますと、排水皿に水が流れますので、給水を止めてください。じょうごを外して、ホースの先端をキャップで確実に閉めてください。
- ④ 上面板を取り付けネジで確実に固定してください。



2. 自動お茶入れ機本体に給水する

D/PA/PBタイプ(水道直結)の場合

専用止水栓を開きます。

Tタイプ(別売置台CT-33F)をご使用の場合

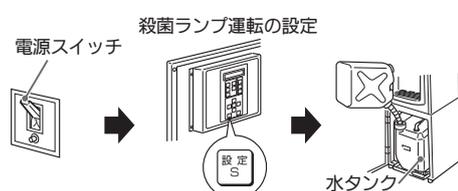
通電する前に別売置台の水タンク(15L×2個)



TUタイプ(別売置台CT-32M)をご使用の場合

コントローラーで殺菌ランプの動作を「スル」に設定した後、別売置台の水タンク(30L)に満水レベルまで給水します。殺菌ランプ運転中は殺菌ランプが点灯していて、水漏れがない

ことを確認してください。

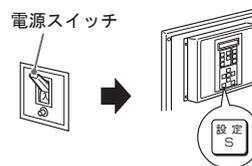


電気工事後のチェックポイント

- アースの接続は確実ですか？
- 接地抵抗は測定し100オーム以下でしたか？
- 電源プラグは専用コンセント(100V15A以上)に確実に接続してありますか？

3. 湯排水コックが「閉」であることを確認し電源スイッチを「入」にする

自動お茶入れ機本体のカップステーションなどを外し、湯排水コックが「閉」になっていることを確認し電源スイッチ(漏電遮断器)を「入」にします。運転ランプが点滅し給水を開始することを確認します。断水などで一定時間内に給水が完了しないと、給水が自動的に停止します。給水を確認し、コントローラーの「設定」キーを押してください。給水を再開します。詳しくは取扱説明書をご覧ください。



4. 排水する

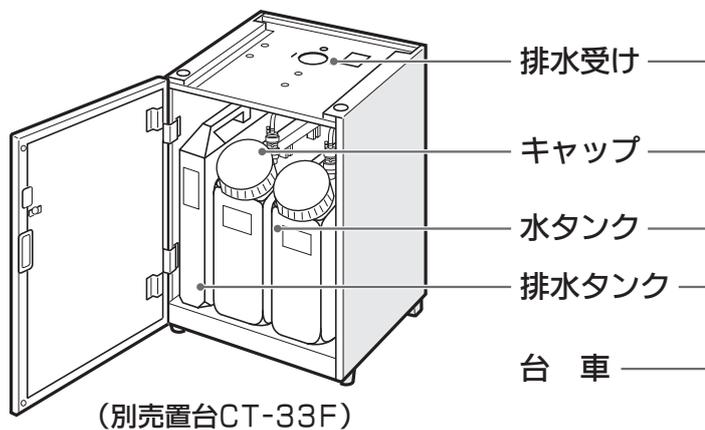
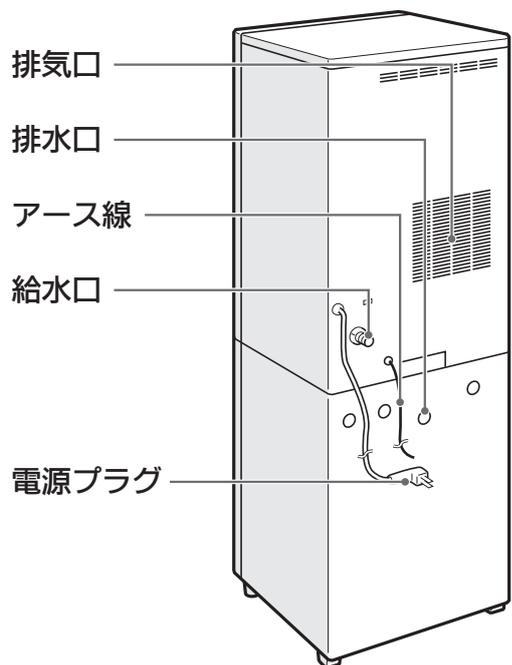
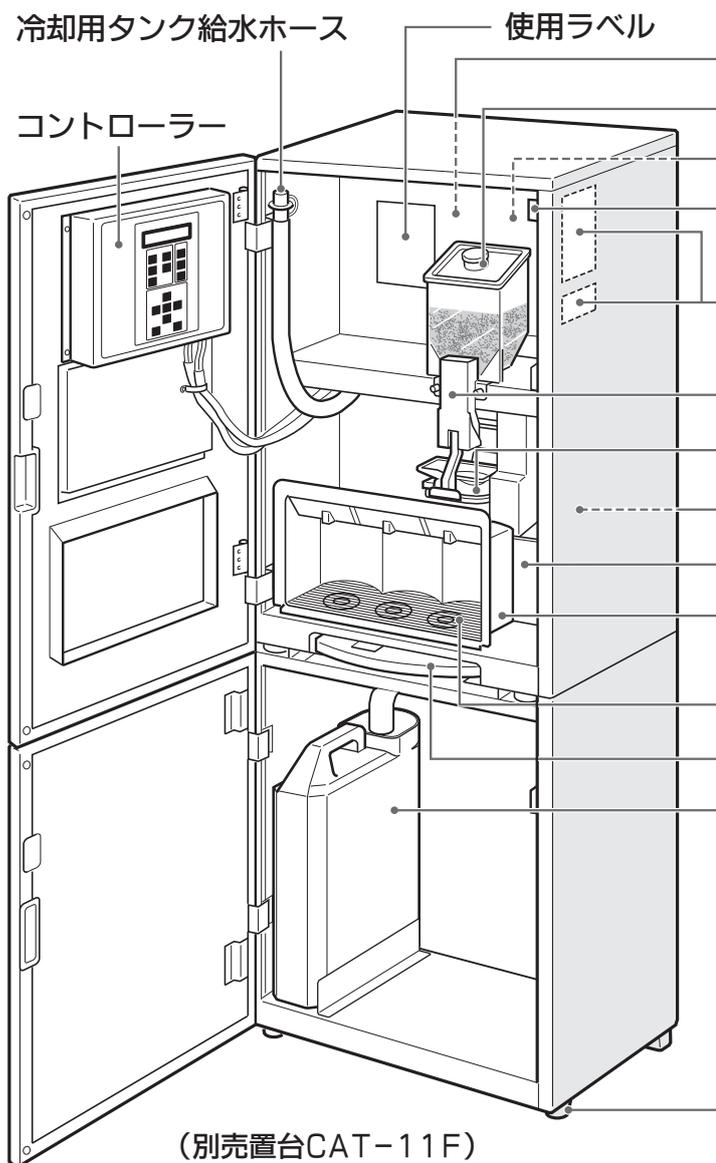
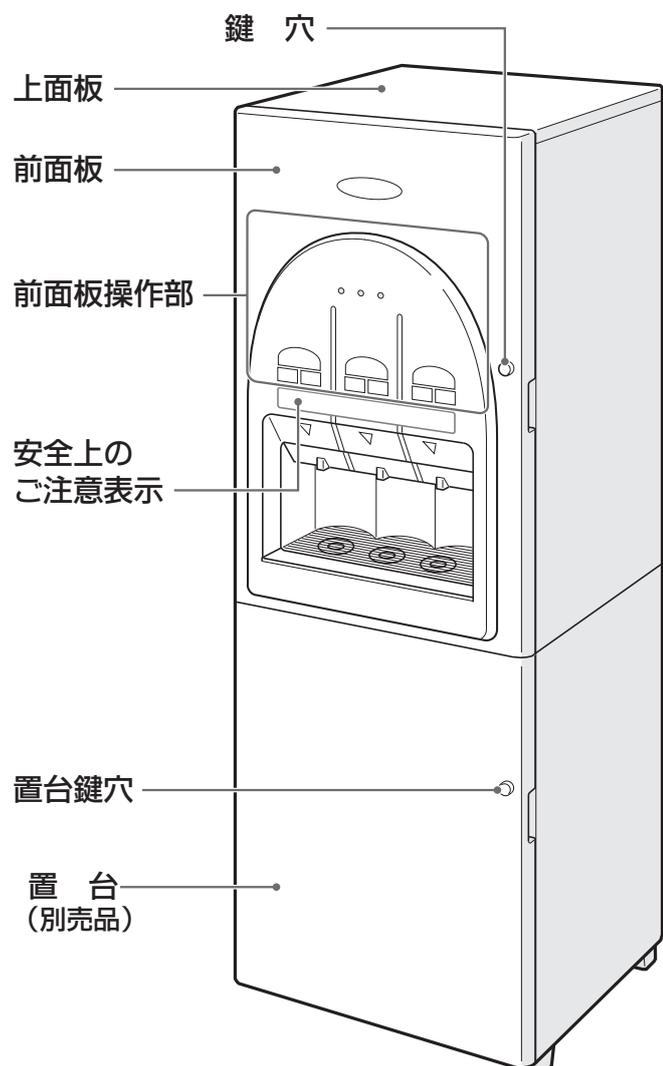
湯排水コックを「開」にし、排水します。容器排水の場合は、2回以上に分けて溢れさせないように排水してください。排水を確認後は湯排水コックは閉じてください。

試運転時のチェックポイント

- 給水中、給水完了後に自動お茶入れ機本体および各配管接続部から水漏れはありませんか？
- 排水時の水漏れを確認しましたか？
水漏れがなく排水できることを確認してください。
- PB/T/TUタイプを容器排水でご使用の場合に、休止モニターを確認しましたか？
別売置台のフロートを持ち上げると、排水ランプが点滅し、コントローラーの休止モニターに「ハイスイシテクダサイ」の表示がでることを確認してください。
- 漏電遮断器(電源スイッチ)のテストボタンをおして「切」になることを確認しましたか？
電源スイッチは漏電遮断器をかかえています。テストボタンを押し、レバーが「切」になり運転ランプが消えれば正常です。

各部のなまえとはたらき

本 体



前面板操作部

冷却用タンク

原料容器

湯タンク

電源スイッチ
(漏電遮断器)

安全上の
ご注意ラベル

原料シュート

茶こし

湯排水コック

茶から容器

カップ
ステーション

スノコ

排水皿

排水タンク

高さ調節脚

運転ランプ

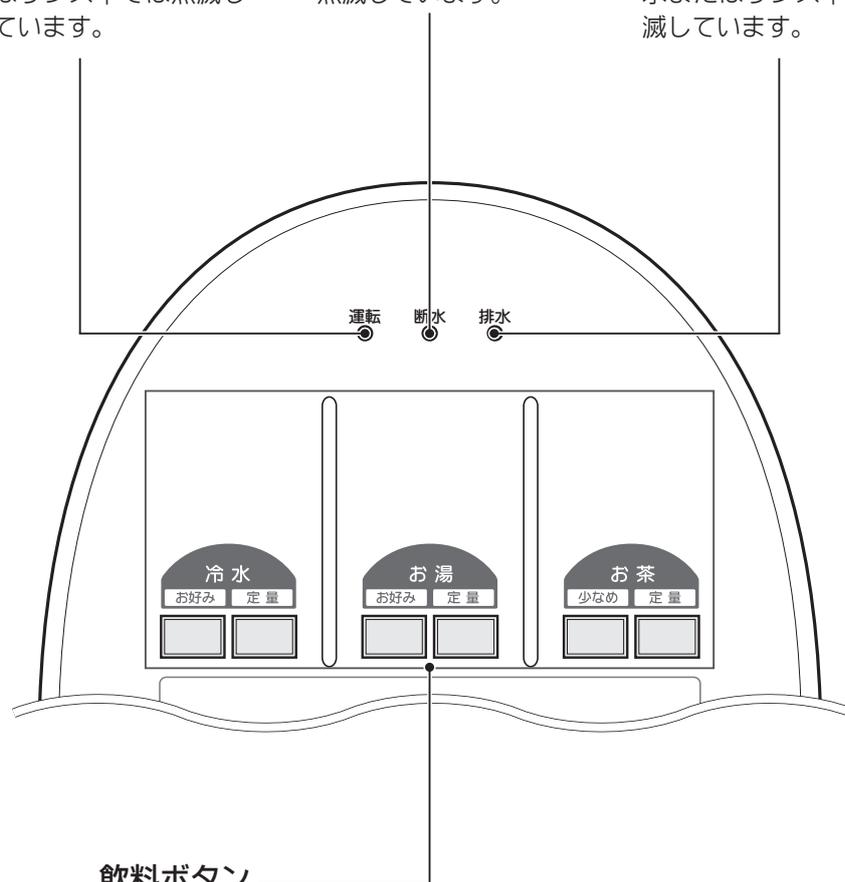
正常な状態では点灯しています。
休止・故障の状態またはリンス中では点滅しています。

断水ランプ

正常な状態では消灯しています。
断水またはリンス中は点滅しています。

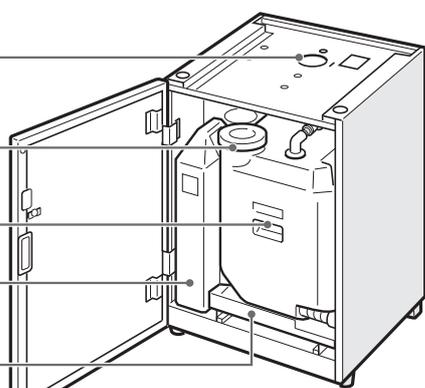
排水ランプ

正常な状態では消灯しています。
置台の排水タンクが満水またはリンス中は点滅しています。



飲料ボタン

ボタンを押すと飲料が注出されます。
HPT-260M₁は「冷水」ボタンが「お水」ボタンになります。



(別売置台CT-32M)

はじめてご使用になる前に

輸送のためのテープや保護パッキン類を取りはずす

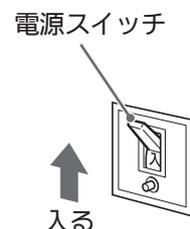
内部などの包装材や、固定用の接着テープが付着していないか確認します。

電源の入れかた

前面板を開けて電源スイッチを兼ねている、漏電遮断器のレバーを上にあげると電源が入り、前面板の運転ランプが点滅し、内部の換気ファンが回ります。

別売置台CT-33Fをご使用の場合

電源を入れる前に、置台の水タンク2個に満水レベルまで給水してください。水タンクが空の状態では電源を入れると、ポンプが故障する原因になります。



より衛生的にご使用いただくために

工場出荷時にタンクや本体内の配管内部を洗浄していますが、より衛生的にご使用いただくために、つぎの手順を2～3回繰り返し内部を洗浄してください。

1. 「給水のしかた」(13～14ページ参照) に従い給水します
2. 前面板操作部の各飲料ボタンを押し、それぞれコップに4～5杯分の水を排水します
3. 「排水のしかた」(15～16ページ参照) に従い本体内部の水を排水します
4. 再度、給水してからご使用ください

給水のしかた

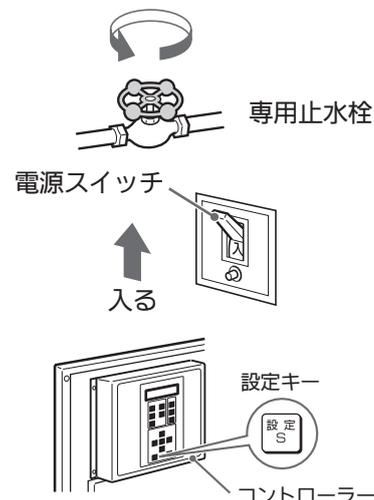
前面板を開け、カップステーションと茶がら容器を取りはずし、湯排水コックが閉まっていることを確認します。



湯タンクへの給水

Dタイプ(水道直結・直接排水・卓上式)、PAタイプ(水道直結・直接排水式) またはPBタイプ(水道直結・排水容器付)の場合

- 1 止水栓を開き給水する
水道の止水栓を開き、本体内部や給水配管からの水漏れがないことを確認します。
- 2 電源を入れる
前面板を開け、漏電遮断器のレバーを上げ電源を入れます。湯タンクに自動的に給水されます。
- 3 断水や一度で満水にならないとき
断水や一度で満水にならないときは、断水ランプが点滅して給水を一時中止します。水道の給水を確認しコントローラー操作部の「設定」キーを押してください。給水を再開します。



Tタイプ (下部給水・排水容器付) の場合

⚠ 注意

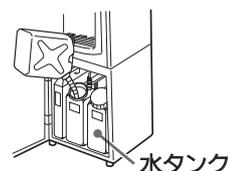
2つのタンクに給水してから電源を入れる

1つのタンクに給水しただけでは正常に動作せず、故障の原因になります。



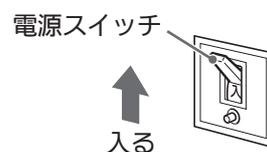
1 置台の水タンクに給水する

別売のポリタンクなどで、置台の水タンク2個に満水レベル(15L)まで給水します。



2 電源を入れる

前面板を開け、漏電遮断器のレバーを上げ電源を入れます。湯タンクに自動的に給水されます。



3 水タンクが空になったり一度で満水にならないとき

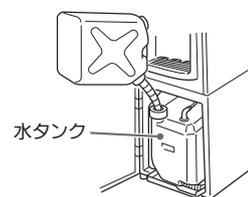
水タンクが空になったり、一度で満水にならないときは、前面板の断水ランプが点滅し、給水を中断します。水タンクに水を補給しコントローラ操作部の「設定」キーを押すと、給水を再開します。



TUタイプ (下部給水・排水容器・殺菌ランプ付) の場合

1 置台の水タンクに給水する

別売のポリタンクなどで、置台の水タンクに満水レベル(30L)まで給水します。



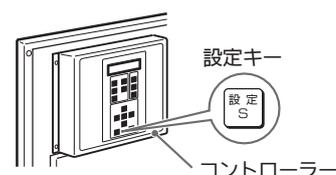
2 電源を入れる

前面板を開け、漏電遮断器のレバーを上げ電源を入れます。湯タンクに自動的に給水されます。



3 殺菌ランプの運転を設定する

コントローラ操作部のキーを押して、設定を「スル」にします。詳細は別売置台の設置注意チラシをご覧ください。



4 水タンクが空になったり一度で満水にならないとき

水タンクが空になったり、一度で満水にならないときは、前面板の断水ランプが点滅し、給水を中断します。水タンクに水を補給し、コントローラ操作部の「設定」キーを押すと、給水を再開します。

冷却用タンクへの給水 (HPT-360M₁のみ)

冷却用タンクへの給水は「年に一度のお手入れ」(35ページ参照)の給水方法に従ってください。(満水になると休止モニターの「レイキャクスイダンスイ」の表示が消えます。)

排水のしかた

湯タンクの排水

1 電源スイッチを切る

前面板を開け、漏電遮断器のレバーを下げ電源を切ります。
電源スイッチを切らないと、排水中に給水してしまいます。



2 湯排水コックを開き排水する

カップステーションと茶がら容器を取りはずし、湯排水コックを開きます。別売置台の排水タンクに排水するときは、自動お茶いれ機本体の湯タンクの排水量が、排水タンクの容量(10L)より多くなる場合があります。排水するときは必ず2回以上に分けて、溢れさせないように排水してください。



お願い

2日以上ご使用にならないときは、雑菌繁殖の恐れがあります。
湯タンクの水を排水してください。

3 湯排水コックを閉じる

排水が完了したのを確認し湯排水コックを閉じます。

冷却用タンクの排水

冷却用タンクの排水は「年に一度のお手入れ」(35ページ参照)の排水方法に従ってください。

別売置台 (CT-33F、CT-32M) 水タンクの排水

湯タンクの排水をしてから、水タンクの排水をしてください。

1 湯排水コックを開き、電源を入れる

前面板を開けカップステーションと茶がら容器を取りはずし、湯排水コックを開き電源を入れます。

電源を入れたままで湯排水コックを開くことにより、水タンクの水を湯タンクに給水しながら排水がおこなえます。約10分が過ぎると自動的に給水が停止します。排水が足りないときは、再度「設定」キーを押してください。

排水量が排水タンクの容量(10L)より多い場合は、必ず2回以上に分けて溢れさせないように排水してください。



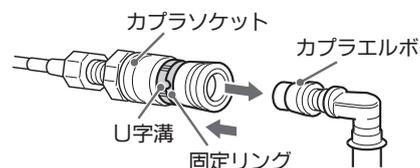
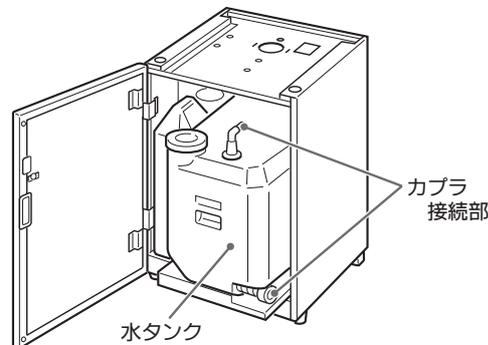
2 カプラをはずし残水をすてる

水タンクの水がほぼ無くなったなら、電源を切り水タンク上部 (CT-32Mは下部も) のカプラをはずし、水タンクを取り出し残水をすてます。

カプラの着脱

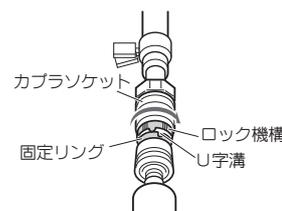
カプラは固定リングをカプラソケット側に約5mm押し付けながら、同じ方向に押しとはずれます。

接続は、はずすときと逆の方向に、カプラソケット全体をエルボに押し付けると固定できます。接続に固定リングは無関係です。



ロック機構について

カプラソケットには、固定リングとカプラソケットにロック機構があります。ロック機構がロック側のときは、取り付けはできませんが取りはずしできません。ロック機構はカプラソケットと固定リングのU字溝が合うと固定リングをカプラソケット側に押し付けることができます。



お願い

別売置台CT-33Fは、2日以上ご使用にならないときは、雑菌繁殖の恐れがあります。水タンクの水を排水してください。別売置台CT-32Mは、殺菌ランプ運転を設定している場合は1週間を目安に、設定していない場合で、2日以上ご使用にならないときは、雑菌繁殖の恐れがありますので、水タンクの水を排水してください。

3 湯排水コックを閉じる

排水が完了したのを確認し、湯排水コックを閉じます。

茶の葉の入れかたと交換条件

⚠ 警告

茶の葉の交換動作中は交換機構部に手を触れない

けがをする原因になります。



接触禁止

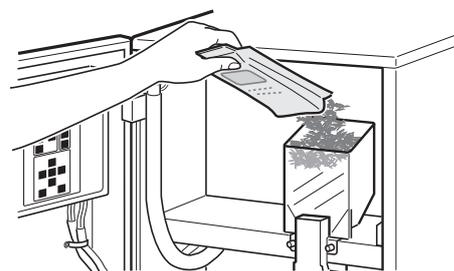
指定の原料（茶の葉）以外のご使用にならないでください。

原料の種類によって茶の葉の大きさなどが異なると、正常な動作ができないことがあります。詳しくは、販売店にご相談ください。

茶の葉を入れる

茶の葉は、原料容器の蓋をとり、上から静かに入れてください。原料容器の容量は、約1,200ml（専用茶で約420g）です。

原料容器をたたいたりして、茶の葉を無理に詰め込まないでください。内部で詰まり出なくなることがあります。茶がら容器が一杯になる前に、茶がらを捨ててください。



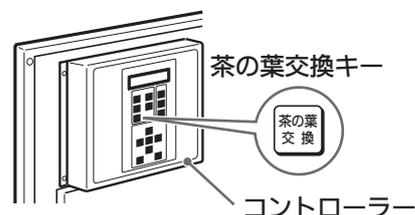
茶の葉の交換条件の変更

出したお茶の量をマイコンが記憶し、設定した量に達すると自動的に茶の葉を交換します。茶の葉の交換条件はコントローラーで設定することができます。「茶の葉の交換条件を設定する」（24ページ参照）。

手動で交換するとき

お手入れの後や手動で交換したいときは、前面板を開けコントローラーの「茶の葉交換」キーを押します。

「茶の葉交換」キーは、連続して押すと、故障の原因となります。茶の葉が出終わった後、10秒以上の間隔をあけてください。



お願い

長時間お使いにならないとき

2日以上ご使用にならなかったとき

雑菌が繁殖している恐れがあります。

湯タンクの水を排水し、新しい水道水と入れ替えてください。

前面板を開け、電源スイッチを切り、カップステーションと茶がら容器を取りはずし、湯排水コックを「開」にして排水します。排水が終了したら湯排水コックを「閉」にし、再度電源スイッチを入れます。

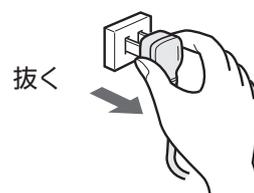
また、本体内の残水をすてるために、飲料ボタンの「冷水」を5～6回押しします。日常のお手入れは、湯排水コックを閉じておこなってください。



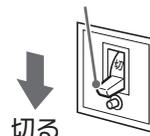
1週間以上ご使用にならないとき

原料容器の茶の葉を全部取り出します。止水栓を閉め排水し、電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、「排水のしかた」(15～16ページ参照)に従い排水してください。

別売置台 (CAT-11F、CT-32M、CT-33F) をご使用の場合は、水タンクや排水タンクの水も、必ず排水してください。



電源スイッチ



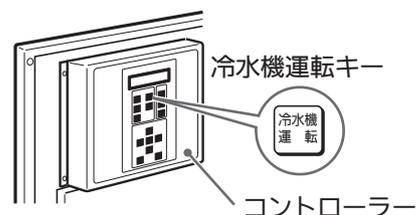
お願い

別売置台CAT-11F、CT-32M、CT-33Fの排水タンクに排水するときは、自動お茶いれ機本体の湯タンクの容量が、排水タンクの容量(10L)より多くなります。排水するときは必ず2回以上に分けて、溢れさせないように排水してください。

冬期などで冷水を長期間お使いにならないとき(360M₁のみ)

コントローラーの「冷水機運転」キーを押します。表示部の指示に従い「ティシ」に設定し、冷水機を停止させ冷却用タンクの排水をおこなってください。

冷却用タンクの排水は「年に一度のお手入れ」(35ページ参照)の排水方法に従ってください。



お湯と水の配管部分は定期的に点検してください

水の中に含まれている成分の量により、水あかや沈殿物が発生し、故障の原因となる場合があります。点検はお買い上げの販売店にご依頼ください。

コントローラーの使いかた

コントローラーで設定できる機能

冷水機運転キー

冷水機の運転、停止を設定します。(HPT-360M1のみ)

リンスキー

この機種は対応していません。

沸騰キー

湯タンクの沸騰動作を行います。定期的に沸騰を行う設定は「選択」キーによる「沸騰制御」で行ってください。

茶の葉交換キー

キーを押すと茶の葉を交換します。交換動作中は交換機構部に絶対に手を触れないでください。

タイマー解除キー

このキーを押し「イチジカイジョ」に設定すると次の休止中条件が一時解除され運転・注出ができるようになります。

- ・適温設定温度以上、以下
- ・「週間予約」「休日予約」
- 「注出時間帯」で休止中
- ・「省エネ」運転中

設定キー

入力操作した内容が設定されます。また故障解除時にキーを押します。

表示部

待機画面では、現在時刻・湯タンク・冷水機の運転状態および温度を表示します。飲料が注出できない状態では「休止モニター」、故障の場合は「故障モニター」を自動表示します。

湯・水原料キー

キーを押すと次ページの機能を順次表示します。

カウンターキー

トータル→ボタン別の累計注出回数を順次表示します。

選択キー

キーを押すと次ページの機能を順次表示します。

訂正キー

表示部の指示により設定内容を変更・自動表示送りを停止をするときに使用します。

終了キー

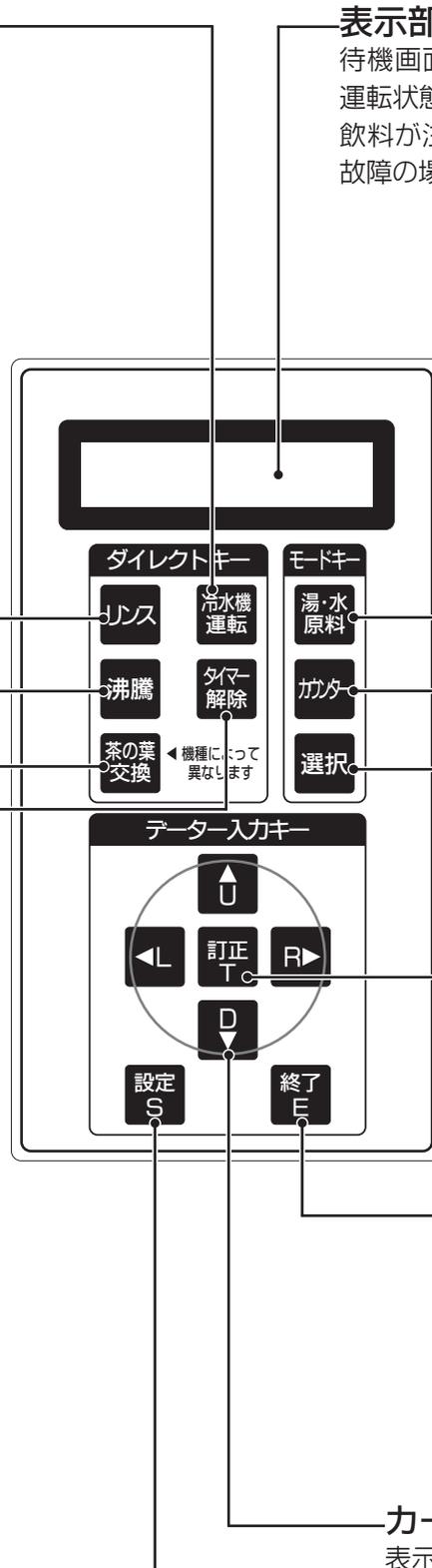
待機画面に戻ります。「リンス」「沸騰」「茶の葉交換」の動作中はボタンを押しても待機画面に戻りません。

カーソルキー

表示画面の中で設定する項目送り、項目・内容・数値選択・自動送り表示を停止するのに使います。

◀▶：項目・内容選択

△▽：項目送り、内容・数値選択、自動送り表示停止



コントローラーの使いかた (つづき)

湯・水 原料 キー

機能	内容
原料 (初回)	茶の葉を交換して最初に茶こしに入れる茶の葉量を設定できます。
原料 (追加)	お茶の濃度を均一にするために、2杯目以降に追加する茶の葉量を設定できます。初回の茶の葉だけでお茶を出すと、数杯は濃く出ますがその後は次第に薄くなります。追加機能は注出することに茶の葉を追加するので、お茶の濃さをほぼ同じにすることができます。
湯・水	各飲料ボタンの湯または水の注出する量を設定できます。
交換湯量	新しい茶の葉と交換する累計注出湯量を設定できます。注出量ではなく注出回数で新しい茶の葉と交換することもできます。
交換時期	お茶が出がらしにならないように、自動で新しい茶の葉と交換する時間を設定できます。
湯・水追加	お茶を2時間以上放置したときの、1杯目の注出量を増やす割合を設定できます。

選択 キー

機能	内容
休止履歴	休止があった場合、最新の休止9項目が表示されます。
故障履歴	故障があった場合、最新の故障9項目が表示されます。修理依頼時に表示内容をご連絡ください。
現在時刻	現在の年月日、時刻の調整に使用します。曜日は年月日に合わせて自動修正されます。
湯温・適温	湯温 (お湯の沸き上げ温度) と適温 (飲料の注出可能温度) の設定ができます。
週間予約	曜日ごとに運転時間を設定できます。休日や夜間などの運転を自動的に停止させることができます。
休日予約	連続して停止させたい期間の年月日を最大3回まで設定できます。連休などの運転を自動的に終日停止させることができます。
沸騰制御	1日に最大3回、設定時刻になると自動的に湯を沸騰させることができます。
自動リンス	曜日ごとに1日最大4回、設定時刻に注出口や配管などを自動的にリンス (洗浄) することができます。またリンスするときの湯・水の量、除菌浄水器 (水フィルター) 内部の水の入れ替えも設定できます。(※除菌浄水器 (水フィルター) が必要です)
タンク排水	曜日ごとに湯タンク内の水を設定時刻に入れ替えることができます。この機能は建物の排水口へ直接排水できる場合で、別売の自動洗浄装置が必要です。
水フィルター交換	除菌浄水器 (水フィルター) の交換時期を設定し、交換時期に達した時に警告または停止させるかどうかの選択を行うことができます。この機能は別売の除菌浄水器付の置台または除菌浄水器 (水フィルター) が必要です。
殺菌ランプ交換	殺菌ランプの交換時期を設定し、交換時期に達した時に警告または停止させるかどうかの選択を行うことができます。この機能は別売の殺菌ランプ付の置台が必要です。
冷却水交換	冷却用タンクの水の交換時期を設定し、交換時期に達した時に警告または停止させるかどうかの選択を行うことができます。この機能はHPT-360M1のみの対応です。
チェック	マイコンのバージョン情報を表示します。修理依頼時に表示内容をご連絡ください。

数値設定する機能の設定可能値

機 能		設定可能値	設定のきざみ	
湯・水・原料	原料の量	初回	0g~15g	0.1g
		追加	0g~5g	0.1g
	湯・水の量(注1)		0ml~250ml・しない	1ml
	交換湯量(注2)		1回~9回 100ml~1400ml	1回、100ml
	交換時間(注3)		0分~120分	1分
湯・水追加		0~100%	1%	
湯温・適温	湯温		70℃~98℃	1℃
	適温(注4)	湯	50℃~85℃・しない	1℃
		冷水	3℃~20℃・しない	1℃
週間予約	週間予約動作		する・しない	
	曜日		月~日・一括(毎日)	
	時刻(注5)	ON時刻	00:00~23:59・連続	1分
		OFF時刻	00:00~23:59・連続	1分
冷水機運転		する・しない		
休日予約	週間予約動作		する・しない	
	年月日	開始日	030801~331231	1日
		完了日	030801~331231	1日
沸騰制御	沸騰動作		する・しない	
	動作音		する・しない	
	時刻(注6)		00:00~23:59・しない	1分
自動リンス	リンス動作		する・しない・週間予約同期	
	動作音		する・しない	
	曜日		月~日・一括(毎日)	
	時刻(注6)		00:00~23:59・しない	1分
	湯量		0ml~250ml	1ml
	水量		0ml~250ml	1ml
	フィルター(除菌浄水器)		0ml~5000ml	1ml
タンク排水	排水動作		する・しない・週間予約同期	
	曜日		月~日・一括(毎日)	
	時刻(注6)		00:00~23:59・しない	1分
水フィルター交換	交換時期動作		しない・警告・停止	
	年月日		030801~331231	1日
殺菌ランプ交換	交換時期動作		しない・警告・停止	
	年月日		030801~331231	1日
冷却水交換	交換時期動作		しない・警告・停止	
	年月日		030801~331231	1日

●湯・水・原料の量は目安であり、実際の量とは多少異なる場合があります。

●工場出荷時は標準的な使いかたの値が設定されています。

くわしくは各機能の設定画面を表示してご確認ください。

(注1) 湯、水の量を「シナイ」に設定すると、その飲料ボタンは押している間だけ飲料を注出します。

(注2) 交換湯量は「1回~9回」に設定すると注出回数で、「100ml~1400ml」に設定すると注出量で新しい茶の葉と交換します。「1回」に設定すると毎回新しい茶の葉と交換します。

(注3) 交換時間を「0分」に設定すると動作はしません。

(注4) 適温を「シナイ」に設定すると湯温や水温に関係なく注出できます。

(注5) 時刻を「連続」に設定すると終日運転または終日停止になります。

(注6) 時刻を「シナイ」に設定すると動作はしません。

コントローラーの使いかた (つづき)

沸騰させる

すぐに沸騰させたい場合

順序	キー操作	表示部表示	内 容
1		*フットウチュウ* ジョウキガ テマスガ イジョウ テハ アリマセン	「沸騰」キーを押すと左記画面が順次自動表示され沸騰動作を開始します。 沸騰が終了すると待機画面に戻ります。

定期的に沸騰させたい場合

[例] 8:30と11:30に沸騰させ、動作中は動作音を鳴らす。

順序	キー操作	表示部表示	内 容
1		*フットウセイギョ* ホカハ U・D ナイヨウハ T	左記の画面が出るまで「選択」キーを繰り返し押します。(「選択」キーを押した後、   キーを押しても項目送りができます。)
2		セツテイハ T→U・D・L・R テ エランテ S オワリハ E	「訂正」キーを押すと左記画面が表示されます。
3		ドウサ シナイ	「訂正」キーを押すと左記画面が表示され「ドウサ」が点滅します。
4		ドウサ スル	  キーで点滅位置を移動し、   キーで「スル」にします。
5		ドウサ スル	「設定」キーを押し、設定を確定します。
6		オト スル	  キーで「オト」の画面を表示させます。 「スル」に設定してあると沸騰動作中に音がします。
7		カイスウ 1カイメ 2カイメ ジコク 00:00 00:00	  キーで「ジコク」の画面を表示させます。
8		カイスウ 1カイメ 2カイメ ドウサ 08:30 11:30	  キーで点滅位置を移動し、   キーで「1カイメ」を「8:30」、「2カイメ」を「11:30」にします。
9		カイスウ 1カイメ 2カイメ ジコク 08:30 11:30	「設定」キーを押し、設定を確定します。
10		待機画面に戻ります。	設定完了です。

茶の葉を交換する

手動で茶の葉を交換したい場合には、次の操作を行ってください。

順序	キー操作	表示部表示	内 容
1		*チャノハ コウカンチュウ* チャコシガ ドウサシマスノテ チュウイ シテクダサイ	「茶の葉交換」キーを押すと、左記画面が順次自動表示され交換動作を開始します。 交換が終了すると待機画面に戻ります。

●茶の葉交換動作中は交換機構部に絶対に手を触れないでください。

冷水機の運転・停止 (HPT-360M₁のみ)

[例] 冷水機を停止させる。

順序	キー操作	表示部表示	内 容
1		*レイスイキ ウンテン* ナイヨウハ T オワリハ E	「冷水機運転」キーを押すと左記画面が表示されます。
2		ウンテン T デ エランテ S ヲ オス	「訂正」キーを押すと左記画面が表示され、「ウンテン」が点滅します。
3		テイシ T デ エランテ S ヲ オス	「訂正」キーを押すごとに、「ウンテン」と「テイシ」が表示されますので「テイシ」を表示します。
4		待機画面に戻ります。	冷水機の運転が停止します。設定完了です。

●1週間以上、冷水機を停止させる場合は、冷却用タンクの水を排出してください。

適温になっていないが注出する

お湯や冷水の温度が適温に達してなく、飲料が注出できないときに飲料を注出したい場合には、次の操作を行ってください。

順序	キー操作	表示部表示	内 容
1		*タイマー イチジ カイジョ* ナイヨウハ T オワリハ E	「タイマー解除」キーを押すと左記画面が表示されます。
2		ウンテン T デ エランテ S ヲ オス	「訂正」キーを押すと左記画面が表示され、「ウンテン」が点滅します。
3		イチジ カイジョ T デ エランテ S ヲ オス	「訂正」キーを押すごとに、「ウンテン」と「イチジカイジョ」が表示されますので「イチジカイジョ」を表示します。
4		待機画面に戻ります。	注出ができるようになります。

●通常の運転状態に戻すには、順序3で「ウンテン」に設定してください。

●「週間予約」「休日予約」「注出時間帯」の休止条件で休止中の場合は、同じ操作で休止を一時解除できます。

●「省エネ運転」で省エネ運転中の場合は、同じ操作で省エネ運転を一時解除できます。

コントローラーの使いかた (つづき)

原料の量を設定する

[例] 初回8.0g、追加0.3gを設定する。

順序	キー操作	表示部表示	内 容
1		*ゲンリョウ* ホカハ U・D ナイヨウハ T	左記画面が表示されるまで「湯・水・原料」キーを繰り返し押します。(「湯・水・原料」キーを押した後、  キーを押しても項目送りができます。)
2		セツテイハ T→U・D・L・R テ エランテ S オワリハ E	「訂正」キーを押すと左記画面が表示されます。
3		ショカイ ツイカ 6.0 0.2	「訂正」キーを押すと左記画面が表示され「ボタン」の下が点滅します。
4		ショカイ ツイカ 8.0 0.3	 キーで「ショカイ」の下を「8.0」にしてください。次に  キーで「ツイカ」の下を点滅させ  キーで「0.3」にします。
5		ショカイ ツイカ 8.0 0.3	「設定」キーを押し、設定を確定します。
6		待機画面に戻ります。	設定完了です。

飲料の量を設定する

[例] 飲料ボタン5を水量120mlに設定する。

順序	キー操作	表示部表示	内 容
1		*ユ・ミズ* ホカハ U・D ナイヨウハ T	左記画面が表示されるまで「湯・水・原料」キーを繰り返し押します。(「湯・水・原料」キーを押した後、  キーを押しても項目送りができます。)
2		セツテイハ T→U・D・L・R テ エランテ S オワリハ E	「訂正」キーを押すと左記画面が表示されます。
3		ボタン ユ 1 100	「訂正」キーを押すと左記画面が表示され「ボタン」の下が点滅します。
4		ボタン ミズ 5 120	 キーで「ボタン」の下を「5」にしてください。次に  キーで「ミズ」の下を点滅させ、  キーで「120」にします。
5		ボタン ミズ 5 120	「設定」キーを押し、設定を確定します。
6		待機画面に戻ります。	設定完了です。

●「シナイ」に設定すると、その設定した飲料ボタンは押している間だけ飲料を注出します。

茶の葉の交換条件を設定する

[例] 交換湯量1,000ml、交換時間30分にする。

順序	キー操作	表示部表示	内 容
1		*コウカン ユリヨウ ジカン* ホカハ U・D ナイヨウハ T	左記画面が表示されるまで「湯・水・原料」キーを繰り返し押します。（「湯・水・原料」キーを押した後、  キーを押しても項目送りができます。）
2		セツテイハ T→U・D・L・R テ エランテ S オワリハ E	「訂正」キーを押すと左記画面が表示されます。
3		コウカン ユリヨウ ジカン 800 0	「訂正」キーを押すと左記画面が表示され「ユリヨウ」の下が点滅します。
4	 	コウカン ユリヨウ ジカン 1000 30	 キーで「ユリヨウ」の下を「1000」にしてください。次に  キーで「ジカン」の下を点滅させ  キーで「30」にします。
5		コウカン ユリヨウ ジカン 1000 30	「設定」キーを押し、設定を確定します。
6		待機画面に戻ります。	設定完了です。

長時間放置後の注出量の追加を設定する

[例] 飲料ボタン1を20%追加に設定する。

順序	キー操作	表示部表示	内 容
1		*ユ・ミズ ツイカ* % ツイカ ホカハ U・D ナイヨウハ T	左記画面が表示されるまで「湯・水・原料」キーを繰り返し押します。（「湯・水・原料」キーを押した後、  キーを押しても項目送りができます。）
2		セツテイハ T→U・D・L・R テ エランテ S オワリハ E	「訂正」キーを押すと左記画面が表示されます。
3		ボタン ユ 1 0	「訂正」キーを押すと左記画面が表示され「ボタン」の下が点滅します。
4	 	ボタン ユ 1 20	 キーで「ユ」の下を点滅させ  キーで「20」にします。
5		ボタン ユ 1 20	「設定」キーを押し、設定を確定します。
6		待機画面に戻ります。	設定完了です。

コントローラーの使いかた (つづき)

累計の注出回数を見る

順序	キー操作	表示部表示	内 容
1		*カウンター* 030801 ホカハ U・D ~091231	「カウンター」キーを繰り返し押すと、年月日→トータル→ボタン1…ボタン6と注出回数が順次表示されます。 (「カウンター」キーを押した後、   キーを押しても項目送りができます。)
		トータル 000000 ホカハ U・D オワリハ E	
		ボタン6 000000 ホカハ U・D オワリハ E	
2		待機画面に戻ります。	確認終了です。

休止・故障履歴を見る

[例] 故障履歴を見る

順序	キー操作	表示部表示	内 容
1		*コショウリレキ* ホカハ U・D ナイヨウハ T	左記画面が表示されるまで「選択」キーを繰り返し押します。(「選択」キーを押した後、   キーを押しても項目送りができます。)
2		ナイヨウハ T→U・D オワリハ E	「訂正」キーを押すと左記画面が表示されます。
3		9. 09- 8-31 12:34 コウカンキコウ イジョウ	「訂正」キーを押すと最新の内容9項目が新しいものから順次   ーにより表示されます。 画面内容は上段の左から履歴番号、故障の年月日、同時刻、下段に故障内容の表示となっています。
		1. 09- 7-21 1:01 ユ センサー ウエ カイホウ	
4		待機画面に戻ります。	確認終了です。

● 休止履歴を見る場合は順序1で「キョウシリレキ」を表示してください。

休止内容は下記項目を表示します。

- ・湯低水位
- ・湯温低い
- ・水温高い
- ・週間予約休止
- ・休日予約休止
- ・エコ制御
- ・省エネ
- ・注出時間休止
- ・タンク排水
- ・殺菌ランプ運転中
- ・冷却中
- ・水フィルター交換
- ・殺菌ランプ交換
- ・冷却水交換
- ・排水バケツ満水
- ・湯断水
- ・水タンク断水
- ・冷却水断水

● 故障内容は下記項目を表示します。

- ・湯センサー下開放
- ・湯センサー下短絡
- ・水センサー開放
- ・水センサー短絡
- ・漏水
- ・IBCセンサー異常
- ・冷水機異常
- ・交換機構異常
- ・電池異常

● 表示される内容は機種、別売置台の種類によって異なります。

現在時刻を合わせる

[例] 09-9-1 12:00に合わせる。

順序	キー操作	表示部表示	内 容
1		*ゲンザイジコク* ホカハ U・D ナイヨウハ T	左記画面が表示されるまで「選択」キーを繰り返し押しします。(「選択」キーを押した後、   キーを押しても項目送りができます。)
2		セツテイハ T→U・D・L・R テ エランテ S オワリハ E	「訂正」キーを押すと左記画面が表示されます。
3		09- 7- 1 (水) 1:01	「訂正」キーを押すと左記画面が表示され「年」が点滅します。
4	 	09- 9- 1 (火) 12:00	  キーで点滅位置を移動し、   キーで各項目を変更します。(曜日は自動修正されます。)
5		09- 9- 1 (火) 12:00	「設定」キーを押し、設定を確定します。
6		待機画面に戻ります。	設定完了です。

湯温・適温を設定する

[例] 湯温を95℃、湯の適温を70℃、冷水の適温を10℃に設定する。

順序	キー操作	表示部表示	内 容
1		*ユオン・テキオン* ホカハ U・D ナイヨウハ T	左記画面が表示されるまで「選択」キーを繰り返し押しします。(「選択」キーを押した後、   キーを押しても項目送りができます。)
2		セツテイハ T→U・D・L・R テ エランテ S オワリハ E	「訂正」キーを押すと左記画面が表示されます。
3		ユオン テキオンhot cold 90℃ 60℃ シナイ	「訂正」キーを押すと左記画面が表示され「ユオン」の下が点滅します。
4	 	ユオン テキオンhot cold 95℃ 70℃ 10℃	  キーで「95」を表示させます。   キーで点滅位置を移動し、同様に適温のhot (湯) cold (水) も変更します。
5		ユオン テキオンhot cold 95℃ 70℃ 10℃	「設定」キーを押し、設定を確定します。
6		待機画面に戻ります。	設定完了です。

- 適温を「シナイ」に設定すると、湯・冷水の温度に関係なく注出できます。
- cold (水) の適温機能はHPT-360M₁のみ対応しています。

コントローラーの使いかた (つづき)

週間予約を設定する

〔例〕日曜日を終日停止、その他の日は8：00から20：00の間運転とし、冷水機も同様の運転とする。

順序	キー操作	表示部表示	内 容
1		*シュウカン ヨヤク* ホカハ U・D ナイヨウハ T	左記の画面が出るまで「選択」キーを繰り返し押しします。(「選択」キーを押した後、 キーを押しでも項目送りができます。)
2		セッテイハ T→U・D・L・R テ エランテ S オウリハ E	「訂正」キーを押すと左記画面が表示されます。
3		ドウサ シナイ	「訂正」キーを押すと左記画面が表示され「ドウサ」が点滅します。
4		ドウサ スル	キーで点滅位置を移動し、 キーで「スル」にします。
5		ドウサ スル	「設定」キーを押し、設定を確定します。
6		ヨウビ ON OFF イッカツ レンゾク **：**	キーで「ヨウビ」の下が「イッカツ」の画面を表示させます。
7		ヨウビ ON OFF イッカツ 08：00 20：00	キーで点滅位置を移動し、 キーで「ON」を「08：00」、「OFF」を「20：00」にします。
8		ヨウビ ON OFF イッカツ 08：00 20：00	「設定」キーを押し、設定を確定します。
9		ヨウビ ON OFF (日) 08：00 20：00	キーで「ヨウビ」の下が「日」の画面を表示させます。
10		ヨウビ ON OFF (日) 08：00 レンゾク	キーで点滅位置を移動し、 キーで「OFF」を「レンゾク」にします。
11		ヨウビ ON OFF (日) **：** レンゾク	「設定」キーを押し、設定を確定します。 ON時刻は自動的に「**：**」となります。
12		レイスイキ ウンテン スル	キーで「レイスイキ ウンテン」の画面を表示させます。
13		レイスイキ ウンテン シナイ	キーで点滅位置を移動し、 キーで「シナイ」にします。
14		レイスイキ ウンテン シナイ	「設定」キーを押し、設定を確定します。
15		待機画面に戻ります。	設定完了です。

●設定は後設定優先となっているため、順序6と9を逆にすると毎日が指定時刻の運転となります。

(後から一括設定すると日曜日も含めて設定されるため、日曜日の終日停止が解除されてしまいます。)

●順序12で冷水機運転を「スル」に設定すると、先に設定した週間予約に関係なく、運転停止中でも冷水機だけは運転します。

休日予約を設定する

[例] 2009年9月19日から2009年9月23日まで運転を休止する。

順序	キー操作	表示部表示	内 容
1		*キユウジツ ヨヤク* ホカハ U・D ナイヨウハ T	左記の画面が出るまで「選択」キーを繰り返し押し ます。(「選択」キーを押した後、   キーを押し ても項目送りができます。)
2		セツテイハ T→U・D・L・R テ エランテ S オワリハ E	「訂正」キーを押すと左記画面が表示されます。
3		ドウサ シナイ	「訂正」キーを押すと左記画面が表示され「ドウサ」 が点滅します。
4	 	ドウサ スル	  キーで点滅位置を移動し、   キーで 「スル」にします。
5		ドウサ スル	「設定」キーを押し、設定を確定します。
6	 	1カイク カイシ カンリョウ 030801 030801	  キーで「1カイク」の画面を表示させます。
7	 	1カイク カイシ カンリョウ 090919 090923	  キーで点滅位置を移動し、   キーで 「カイシ」を「090919」、「カンリョウ」を 「090923」にします。
8		1カイク カイシ カンリョウ 090919 090923	「設定」キーを押し、設定を確定します。
9		待機画面に戻ります。	設定完了です。

- 最大3回まで設定できます。
- 2日以上ご使用にならなかったときは、雑菌繁殖の恐れがあります。
湯タンクや別売置台の水タンクの水は、新しい水道水に入れ替えてください。
また、各飲料ボタンを5～6回押し注水動作を行い、配管内の残水を排水してください。

コントローラーの使いかた (つづき)

定期的にリンスを行う

[例] 毎日、11:00と16:00と22:00に湯量150ml、水量60mlでリンスを行い、動作中は動作音をさせる。

順序	キー操作	表示部表示	内 容
1		*ジドウリンス* ホカハ U・D ナイヨウハ T	左記の画面が出るまで「選択」キーを繰り返し押し ます。(「選択」キーを押した後、キーを押し ても項目送りができます。)
2		セッテイハ T→U・D・L・R テ エランテ S オウリハ E	「訂正」キーを押すと左記画面が表示されます。
3		ドウサ スル	「訂正」キーを押すと左記画面が表示され「ドウサ」が 点滅します。自動リンスを行わない場合は、カーソル キーと「設定」キーで「シナイ」に設定してください。
4		オト スル	キーで「オト」の画面を表示させます。 「スル」に設定してあると動作中に音が鳴ります。
5		ヨウビ 1カイメ 2カイメ イッカツ 07:00 シナイ	キーで「ヨウビ」の下が「イッカツ」の画面の 「1カイメ」「2カイメ」の画面を表示させます。
6		ヨウビ 1カイメ 2カイメ イッカツ 11:00 16:00	キーで点滅位置を移動し、キーで「1カイメ」 を「11:00」、「2カイメ」を「16:00」にします。
7		ヨウビ 1カイメ 2カイメ イッカツ 11:00 16:00	「設定」キーを押し、設定を確定します。
8		ヨウビ 3カイメ 4カイメ イッカツ シナイ シナイ	キーで「ヨウビ」の下が「イッカツ」の画面の 「3カイメ」「4カイメ」の画面を表示させます。
9		ヨウビ 3カイメ 4カイメ イッカツ 22:00 シナイ	キーで点滅位置を移動し、キーで 「3カイメ」を「22:00」にします。
10		ヨウビ 3カイメ 4カイメ イッカツ 22:00 シナイ	「設定」キーを押し、設定を確定します。
11		ユ ミズ フィルタ リョウ 200 50 0	キーで「リョウ」の画面を表示させます。
12		ユ ミズ フィルタ リョウ 150 60 0	キーで点滅位置を移動し、キーで「ユ」 を「150」、「ミズ」を「60」にします。
13		ユ ミズ フィルタ リョウ 150 60 0	「設定」キーを押し、設定を確定します。
14		待機画面に戻ります。	設定完了です。

- 順序3で「ドウサ」を「シュウカンヨヤクドウキ」(週間予約同期)に設定すると、「週間予約」(「週間予約を設定する」
27ページ参照)の設定OFF時刻にリンス動作を行います。
- 順序12でフィルターのを設定すると、動作設定してある曜日に1日1回だけ、1回目のリンス時刻に除菌浄水器
(水フィルター)内部の水の入れ替えを行います。

自動的に湯タンクの水を入れ替える

この機能を使用するには建物の排水口へ直接排水できる場合で、別売の「自動洗浄装置」が必要です。

[例] 日曜日の5:00に排水させ、水を入れ替える。

順序	キー操作	表示部表示	内 容
1		*タンク ハイスイ* ホカハ U・D ナイヨウハ T	左記の画面が出るまで「選択」キーを繰り返し押し ます。「選択」キーを押した後、キーを押して も項目送りができます。
2		セッテイハ T→U・D・L・R テ エランテ S オワリハ E	「訂正」キーを押すと左記画面が表示されます。
3		ドウサ シナイ	「訂正」キーを押すと左記画面が表示され「ドウサ」 が点滅します。
4	 	ドウサ スル	キーで点滅位置を移動し、キーで 「スル」にします。
5		ドウサ スル	「設定」キーを押し、設定を確定します。
6	 	ヨウビ ジコク (日) 00:00	キーで「ヨウビ」の下が「日」の画面を表示 させます。
7	 	ヨウビ ジコク (日) 05:00	キーで点滅位置を移動し、キーで 「ジコク」を「05:00」にします。
8		ヨウビ ジコク (日) 05:00	「設定」キーを押し、設定を確定します。
9		待機画面に戻ります。	設定完了です。

- 順序4で「ドウサ」を「シュウカンヨヤクドウキ」(週間予約同期)に設定すると、「週間予約」(「週間予約を設定する」
27ページ参照)の設定OFF時刻に湯タンクの水を排水し、次の設定ON時刻に給水します。
この機能を使用すると「週間予約」で停止中は湯タンク内は空になっていて、運転開始時に新しい水が給水されま
すので衛生的です。
- この機能は置台の排水タンクに排水する場合は、湯タンクの容量の方が多く排水しきれません。
建物の排水口へ直接排水する場合のみとなります。

コントローラーの使いかた (つづき)

水フィルターの交換時期を設定する

この機能を使用するには別売の除菌浄水器（水フィルター）または除菌浄水器付の置台が必要です。

【例】2009年10月1日に水フィルターを交換し、次の交換時期を1年後の2010年10月1日とする。

交換時期に達したら、休止モニターに表示し運転を停止させる。

順序	キー操作	表示部表示	内 容
1		*ミズ フィルター コウカン* ホカハ U・D ナイヨウハ T	左記の画面が出るまで「選択」キーを繰り返し押し ます。「選択」キーを押した後、 キーを押し ても項目送りができます。）
2		セツテイハ T→U・D・L・R テ エランテ S オウリハ E	「訂正」キーを押すと左記画面が表示されます。
3		ドウサ シナイ	「訂正」キーを押すと左記画面が表示され「ドウサ」 が点滅します。
4		ドウサ テイシ	キーで点滅位置を移動し、 キーで 「テイシ」にします。
5		ドウサ テイシ	「設定」キーを押し、設定を確定します。
6		ゼンカイ ジカイ 030801 040801	キーで年月日の画面を表示させます。
7		ゼンカイ ジカイ 030801 101001	キーで点滅位置を移動し、 キーで 「ジカイ」を「101001」にします。
8		ゼンカイ ジカイ 091001 101001	「設定」キーを押し、設定を確定します。
9		待機画面に戻ります。	設定完了です。

●順序4で「ドウサ」を「ケイコク」に設定すると、交換時期に達したとき休止モニターに表示されますが、運転は停止しません。

「シナイ」に設定するところの機能は動作しません。

●「ゼンカイ」の年月日は「ジカイ」の年月日を変更して「設定」キーを押したときのみ、その日の年月日に変更されます。

「ドウサ」の設定内容の変更は「ゼンカイ」の年月日を換えずに変更することができます。

殺菌ランプの交換時期を設定する

この機能を使用するには別売の殺菌ランプ付の置台が必要です。

[例] 2009年10月1日に殺菌ランプを交換し、次の交換時期を1年後の2010年10月1日とする。
交換時期に達したら、休止モニターに表示し運転を停止させる。

順序	キー操作	表示部表示	内 容
1		*サッキン ランプ コウカン* ホカハ U・D ナイヨウハ T	左記の画面が出るまで「選択」キーを繰り返し押し ます。「選択」キーを押した後、   キーを押し ても項目送りができます。
2	続きの設定については「水フィルターの交換時期を設定する」(31ページ参照)の順序2以降と同じ操作 になりますので、そちらをご覧ください。		

冷却用タンクの水の交換時期を設定する

この機能はHPT-360M1のみの対応です。

[例] 2009年10月1日に冷却用タンクの水を交換し、次の交換時期を1年後の2010年10月1日とする。
交換時期に達したら、休止モニターに表示し運転を停止させる。

順序	キー操作	表示部表示	内 容
1		*レイキャクスイ コウカン* ホカハ U・D ナイヨウハ T	左記の画面が出るまで「選択」キーを繰り返し押し ます。「選択」キーを押した後、   キーを押し ても項目送りができます。
2	続きの設定については「水フィルターの交換時期を設定する」(31ページ参照)の順序2以降と同じ操作 になりますので、そちらをご覧ください。		

- 順序4で「ドウサ」を「ケイコク」に設定した場合の動作も、水フィルターの交換時期設定と同様の動作になります。
「シナイ」に設定するとこの機能は動作しません。
- 「ゼンカイ」の年月日は「ジカイ」の年月日を変更して「設定」キーを押したときのみ、その日の年月日に変更
されます。
「ドウサ」の設定内容の変更は「ゼンカイ」の年月日を換えずに変更することができます。

お手入れ

⚠ 警告

部品の取り付け、取りはずしおよびお手入れするときは、電源スイッチを切る
感電やけがの原因になります。



指 示

お手入れするときなど、本体各部に直接水をかけない
ショートや感電の原因になります。



水かけ禁止

⚠ 注意

お手入れ部品は確実に取付けてください
茶の葉交換動作をさまたげ故障の原因になります。



指 示

茶がら容器のサイズに合ったビニール袋を使用してください
茶の葉交換動作をさまたげ故障の原因となります。



指 示

部品を取りはずし洗浄するときは

ぬるま湯（50℃以下）をご使用ください。高温のお湯を使用すると、変形したり故障の原因になります。

汚れが落ちにくいときは

薄めた中性洗剤を使用し、柔らかいスポンジなどで擦り洗いし、きれいな水で洗剤を洗い流してください。

茶シブの洗浄はお早めに

茶シブを放置すると落ちにくくなります。早めにふきとってください。

原料容器を着脱するとき

茶の葉を入れたままで、原料容器を着脱するときは、その先端から茶の葉がこぼれないように、静かに取り扱ってください。

お手入れが終わったら

部品をもとの位置に納め、電源スイッチを入れ、前面板を開けコントローラーの「茶の葉交換」ボタンを押し、茶こし網に新しい茶の葉を入れてご使用ください。

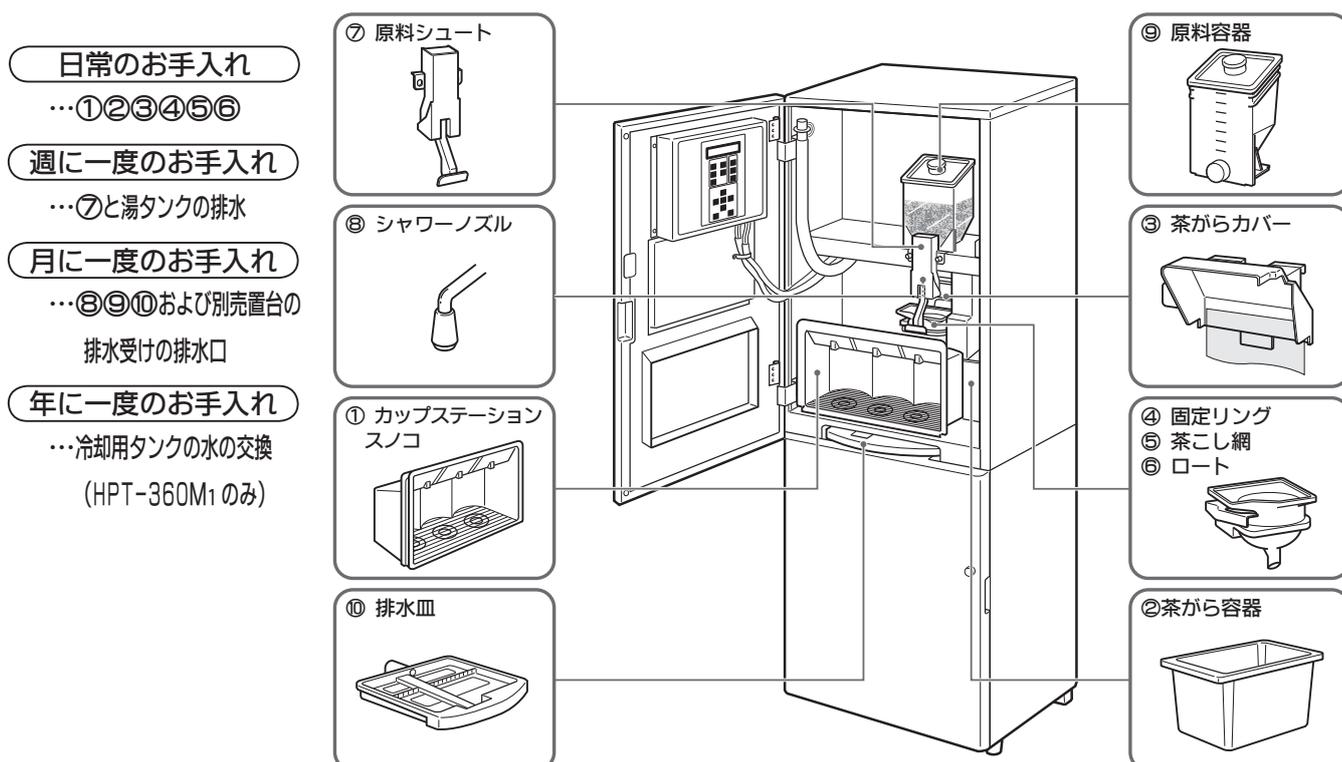
お茶の使用量の多い場合は

茶がら容器が一杯になる前に捨ててください。

お手入れの時期と手順

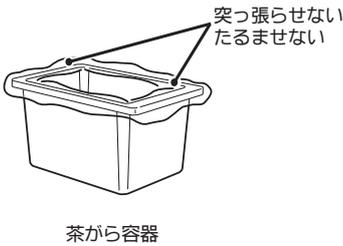
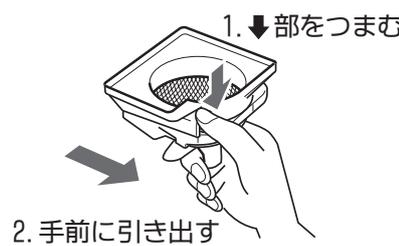
お手入れの時期と手順は下図の順番でおこないます。

順番が違ふと取りはずせない部品もあります。取り付けるときは、逆の手順でおこなってください。



日常のお手入れ

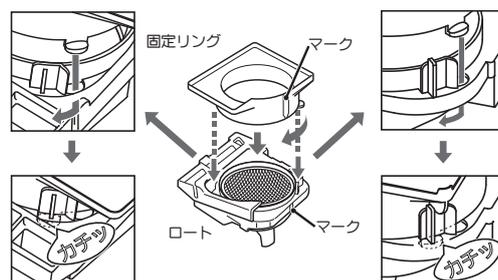
手順にしたがい部品を取りはずしてください。取り付けは逆の手順でおこないます。
機械内外のホコリや汚れは、きれいなフキンでふき取ります。

手順	部 品	お手入れのしかた	
①	カップステーション	少し持ち上げてから、手前に取りはずします。 洗浄した後は水気を良く切ってください。	
②	茶 が ら 容 器	カップステーションをはずした後、手前にはずします。 洗浄した後は水気を良く切ってください。 茶がら容器に袋を使用するときは、茶がら容器の大きさにあったサイズの袋を使用してください。茶がら容器より小さい袋をかぶせると突っ張って容器の内側へはみ出しますので使用しないでください。茶がら容器よりも大きい袋は内側にたるみがないようにかぶせてください。	
③	茶 が ら カ バ ー	上に軽く持ち上げてから、手前にはずします。 洗浄した後は水気を良く切ってください。	
④	固 定 リ ン グ	左側レバーをつまみ手前にはずします。固定リングを左に回して上にはずし、3つの部品を中性洗剤を薄めたぬるま湯で、やわらかいスポンジなどでこすり洗いします。洗浄した後は水気を良く切ってください。	
⑤	茶 こ し 網		
⑥	ロ ー ト		

お願い（茶こしの取り扱いについて）

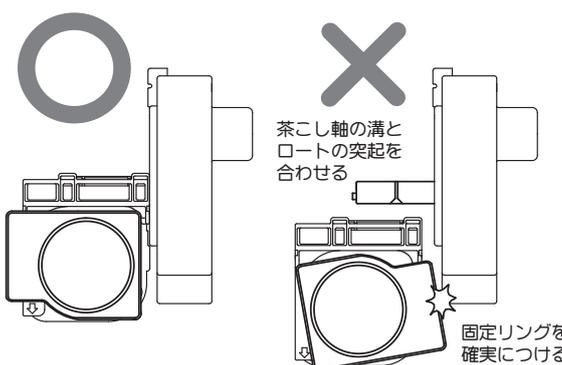
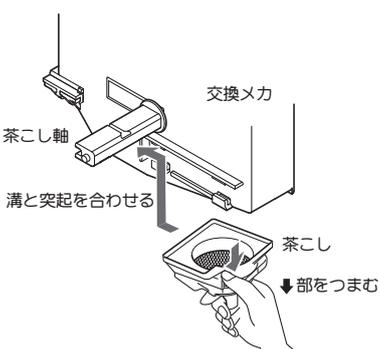
固定リングを取り付けるとき

固定リングを着脱するときは茶こしをはずした状態で行ってください。固定リングは取り付け方向がありますので十分に注意してください。固定リングの2箇所（爪）をロートの取り付け穴に差し込み、カチッと音がなって止まるまで右に回し確実に取り付けてください。取り付け後は固定リングとロートの位置合わせのマークが合っていることを確認してください。



茶こしを取り付けるとき

茶こしを取り付けるときは、固定リングが確実に取り付けられていることを確認し、左側のレバーをつまみながら取り付けてください。
取り付けるときは交換メカの茶こし軸の溝とロートの突起（上下3箇所）が合うように注意して取り付けてください。



お手入れ (つづき)

週に一度のお手入れ

①～⑥までの部品を取りはずした後、手順にしたがい部品を取りはずしてください。
取り付けは逆の手順でおこないます。

手順	部 品	お手入れのしかた
⑦	原料 シュート	化粧ネジ2本をゆるめ、上にずらして手前にはずし、ぬるま湯で洗います。洗淨した後は十分に乾燥させてから取り付けます。
—	湯 タ ン ク	湯排水コックを開き、湯タンクの水を新しい水と入れ替えてください。

月に一度のお手入れ

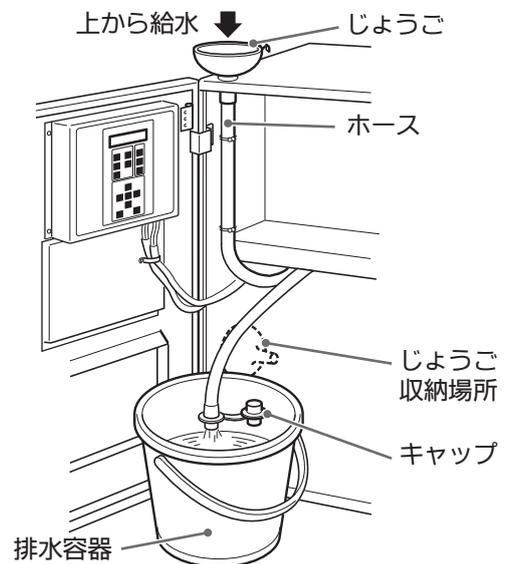
①～⑦までの部品を取りはずした後、手順にしたがい部品を取りはずしてください。
取り付けは逆の手順でおこないます。

手順	部 品	お手入れのしかた
⑧	シャワーノズル	<p>パイプからシャワーとノズルをはずし、洗淨してください。湯垢などがたまり、目がつまってお湯の出が悪くなる場合があります。このようなときは、ノズルをシャワーからはずして、ピンのようなもので穴を通します。</p> <p>ノズルをシャワーに取り付けるときは、ノズルの凸が下になるように取り付けます。シャワーは確実にパイプに差し込んでください。</p>
⑨	原 料 容 器	茶の葉を取り出して、ぬるま湯で洗淨した後は十分に乾燥させてください。
⑩	排 水 皿	本体底部から引き出して、ぬるま湯で洗ってください。
—	置 台 排 水 口	置台上方の排水受けの排水口がゴミなどで詰まる場合があります。化粧ネジ (1本) を取り、排水受けをはずし点検してください。ゴミなどが詰まっているときは、清掃してください。

年に一度のお手入れ

冷却用タンクの水の交換 (HPT-360M₁のみ)

	お手入れのしかた
排 水 方 法	<p>キャップをはめたままホースをはずし、排水容器の中にホースの先端を入れ、キャップをはずし排水をします。(冷却用タンク容量：4.9L)</p> <p>排水が終わったら、キャップをはめて、ホースを本体にセットしてください。</p>
給 水 方 法	<p>本体上部中央のネジをはずし上面板をはずしてください。ホースを本体にセットしたままキャップをはずし、上面の左手前側にある穴からじょうごを入れて、ホースの先端に差し込み、上から給水をします。じょうごは、本体内部の左側面の下側に収納されています。</p> <p>タンクがいっぱいになると、溢れて排水皿に水が流れるのが見えます。給水を止め、じょうごをはずして、ホースにキャップをはめてください。</p>



別売部品

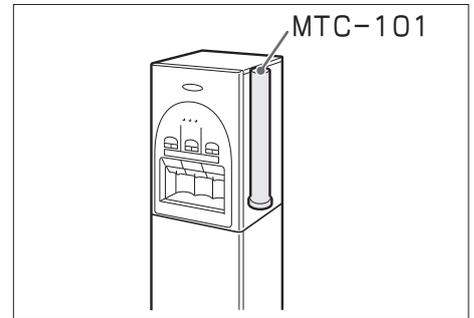
次のものが別売部品として用意されています。詳しくは販売店にご相談ください。
置台については「設置について」(5～10ページ参照)、「はじめてご使用になる前に」(13ページ参照)をご覧ください。

カップホルダー (MTC-101)

自動お茶いれ機本体に取り付け可能です。
カップサイズが4段階調節可能で、自動お茶いれ機本体の左右どちら側にも取り付けられます。

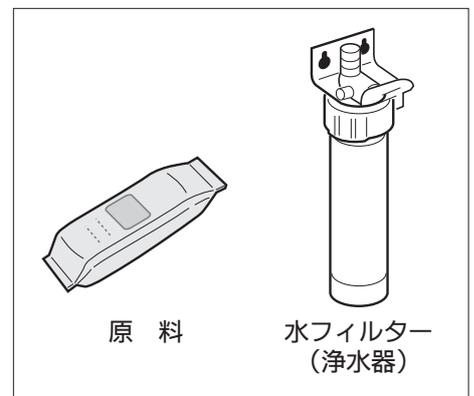
原料

自動お茶いれ機専用として、特に厳選された原料を用意してあります。
原料は粒度や吸湿性の違いにより正常な動作ができないことがありますので、必ず指定の原料をご使用ください。



除菌浄水器 (水フィルター)

水道水に含まれる臭いを除去し、雑菌繁殖を防ぐためのものです。
水フィルターは性能を維持するため、定期的な交換が必要です。
詳しくは販売店にご相談ください。



自動洗浄装置 (JST-23)

排水用電磁弁です。コントローラーで曜日・時刻を設定しておくこと、その時刻に自動的に湯タンク内の水を排水し、再給水して新しい水と入れ替えることができます (但し直接排水できる場合に限りです)。

カップ置台

前面板の飲料注出部の下側に取り付けることにより、複数杯注出した場合にカップを置くことができます。

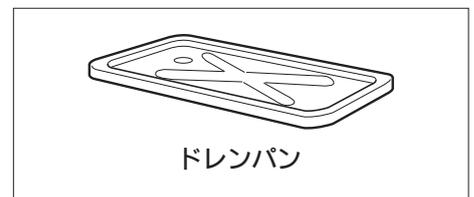


漏水検知装置 (RKT-25) [D/PAタイプ用]

漏水センサー・外部追加の電磁弁・ドレンパンなどのセットで、万一水漏れした場合に外部追加の電磁弁を閉める機能があり、水漏れに対する安全性が向上します。

ドレンパン (RKT-01P) [PB/T/TUタイプ用]

置台の下に敷き、床面を汚さないようにするためのものです。
大きさは524mm×574mmで、深さは17mmです。



リード線付漏水センサー (RKT-03P) [PB/T/TUタイプ用]

ドレンパンとセットで使用し、万一水漏れした場合に検知します。

修理サービスを依頼する前に

こんなときは	調べるところ	処置のしかた
湯が沸かない	●電源プラグがはずれていませんか？	●電源プラグをコンセントにしっかりと差し込んでください。
	●電源スイッチが切れていませんか？	●電源スイッチを入れてください。
	●水タンクに水は充分入っていますか？ (下部給水タイプの場合)	●水タンクの残水量が少なくなると本体へ給水しなくなり、湯タンクの水位が下がりヒーターに通電されなくなります。タンクに水を補給してください。
	●断水していませんか？ または給水配管の止水栓が閉まっていますか？ (水道直結タイプの場合)	●同上の理由でヒーターに通電されなくなります。給水配管の止水栓を開いてください。
	●「週間予約」・「休日予約」の休止中ではありませんか？	●運転再開まで待つか、「タイマー解除」キーで一時的解除してください。
湯がぬるい	●湯温の設定が低くなっていませんか？	●お望みの温度に設定してください。
	●湯排水コックはしっかりと閉まっていますか？	●湯が流れ出て、常に新しい水が入っているためです。湯排水コックはしっかりと閉めてお使いください。
	●水タンクには水は充分入っていますか？ (下部給水タイプの場合)	●水を補給してください。 約1時間(HPT-260M ₁)は約2時間で湧き上がります。
	●断水していませんか？ または給水配管の止水栓が閉まっていますか？ (水道直結タイプの場合)	●給水配管の止水栓を開いてください。
冷水の冷えがわるい (HPT-360M ₁ のみ)	●本体後面の排気口が塞がっていませんか？	●本体を壁などの障害物から離してください。
	●直射日光が当たっていませんか？	●窓にブラインドなどをしてください。
	●近くに熱器具がありませんか？	●熱器具と離してください。
	●連続して多量の冷水を取り出した後ではありませんか？	●再び冷えるまでしばらくお待ちください。 約10分で適温となります。
	●冷却用タンクに水が充分入っていますか？	●冷却用タンクに給水してください。
排水ランプが点滅	●置台の排水タンク・容器が満水ではありませんか？	●排水タンク・容器の水をすててください。
断水ランプが点滅	●湯タンクまたは冷却用タンクの水位が低くありませんか？(休止モニターに表示されます)	●湯タンクまたは冷却用タンクに給水してください。
	●水タンクには水は充分入っていますか？ (下部給水タイプの場合)	●水を補給してください。
	●断水していませんか？ または給水配管の止水栓が閉まっていますか？ (水道直結タイプの場合)	●給水配管の止水栓を開いてください。
	●冷却用タンクに水が充分入っていますか？	●冷却用タンクに給水してください。
運転音が大きい	●機体が不安定ではありませんか？	●床にかいものなどをして、機体がグラグラしないように安定させてください。
	●機体が他の製品に触れていませんか？	●他の製品から離してください。

こんなときは	調べるところ	処置のしかた
飲料の味がまずい 飲料の味が薄い 飲料の味が濃い	●コントローラーの湯・水・原料の量は適切ですか？	●湯・水・原料の量を、お好みの味となるように再設定してください。
	●原料の種類をかえていませんか？	●指定の専用原料をご使用ください。
	●原料は充分入っていますか？	●原料を補給してください。
	●原料容器出口が詰まっていますか？	●湿気が多いと出口が詰まることがありますので、原料補給時につまりを取り除いてください。
	●原料シュートは取り付けてありますか？	●原料シュートを取り付けてください。 原料シュートがないと原料が飛び散ります。

仕 様

項 目	給 茶 部	冷 水 部 (HPT-360M ₁ のみ)	
製 品 寸 法	巾450mm×奥行500mm (カップ置台取付時635mm) ×高さ780mm (置台組合せ1430mm)		
製 品 質 量	35kg 【23kg】		
タ ン ク 容 量	7.2L	4.9L	
湯・冷水温度	約90℃ (80~98℃可能)	約4℃	
原料容器の容量	約1,200ml (専用茶で約420g)		
茶の葉交換	マイコン記憶による自動、又は茶の葉交換キーによる手動交換		
給水管口径	G1/2A		
電 気 定 格	電 源	単相交流100V 50/60Hz 共用	
	消費電力	1,015W	175/190W
表 示	LEDランプ		
加 装 熱 置	電熱装置	シーズ線ヒーター (1,000W)	—
	温度調節	サーミスタによる電子コントロール	—
	安全装置	温度過昇防止器	—
冷 却 装 置	圧 縮 機	—	完全密閉型
	凝 縮 機	—	プレートフィン付チューブ (強制空冷)
	冷 媒	—	フロンHFC-134a
	温度調節	—	IBC (アイスバンクコントロール)
付 属 品	取扱・工事説明書、保証書、鍵		

●HPT-360M₁を主体に表示してあります。【 】内はHPT-260M₁の仕様です。

保証とアフターサービス (必ずお読みください)

保証書 (別添)

- この自動お茶いれ機には、保証書を別途添付しております。
 - 保証書は、必ず「お買い上げ日・販売店名」などの記入をお確かめのうえ、販売店から受け取っていただき内容をよくお読みの後、大切に保管してください。
 - この自動お茶いれ機の保証期間は、お買い上げいただいた日から1年です。
- その他、詳しくは保証書をご覧ください。

補修用性能部品の保有期間

- この自動お茶いれ機の補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後、最低8年間です。
- 補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理を依頼されるときは

37～38ページに従って調べていただき、なお異常があるときは、電源を切り使用を中止し、必ず電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げの販売店にご連絡ください。

出張修理

■保証期間中は.....

保証書の規定にしたがって、販売店が修理させていただきます。なお、修理に際しましては、保証書をご提示ください。

■保証期間が過ぎている場合は.....

保証期間経過後の修理については、お買い上げの販売店にご相談ください。修理すれば使用できる場合は、ご希望により有料で修理させていただきます。

■修理料金の仕組み.....

修理料金は技術料・部品代・出張料などで構成されています。	
技術料	故障した商品を正常に修復するための料金です。
部品代	修理に使用した部品代金です。
出張料	商品のある場所へ技術者を派遣する料金です。

■ご連絡いただきたい内容.....

品名	自動お茶いれ機
形名	HPT-360M ₁ /HPT-260M ₁
お買い上げ日	年 月 日
故障の状況	できるだけ具体的に
ご住所	付近の目印等も合わせてお知らせください
お名前	
電話番号	
訪問希望日	
便利メモ	お買い上げの販売店名を記入しておくとう便利です。 TEL.

 <p>愛情点検</p>	長年ご使用の自動お茶いれ機の点検を！		
	<p>このような症状はありませんか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●ブレーカーがたびたび切れる。 ●電源コードや電源プラグに過熱や破損がある。 ●運転音が異常に大きい。 ●電源スイッチの動作が不確実。 ●その他の異常・故障がある。 	<p>▶</p> <p>ご使用中止</p>